

第六款 社會ノ風儀ヲ紊ル罪

第一章 偽證ノ罪

偽證罪トハ訴訟ノ争點若シハ審問ノ要點ニ重要ナル事實即チ證據タル可キ事實ニ關シ知リツ、詐欺ノ陳述ヲ爲スノ所爲ヲ云フ但現行法律ニ於テハ其刑事ニ係ルモノニ就テハ特ニ被告人ヲ曲庇陷害スルノ故意ヲ以テスルコトヲ必要トス(第二百十八條及第二百十九條及第二百二十三條)故ニ我刑法ノ所謂偽證罪ナルモノハ法廷内ニ於ケル證據ヲ偽ルモノナレトモ法廷外ニ於テ證據ヲ偽造スルモノ、如キモ亦決シテ之ヲ不問ニ附ス可キニ非ス例ヘハ人ノ殺サレタルモノアルニ乘シテ故ラニ或人ヲ其罪ニ陷レント欲シ其人ノ常ニ所有セル刀ヲ竊取シテ之ヲ人ノ殺サレタル場所ニ置キ又ハ血痕アル手巾ヲ其人ノ家宅内ニ投入スル等ノ如キハ我刑法ノ問ハサル所ナリ

(主體) 偽證罪ノ主體タルモノハ刑事民事商事又ハ行政ノ裁判ニ於テ證人鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者及賄賂等ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ此罪ヲ犯サシメタル者トス故ニ事實參考人ノ如キハ此罪ヲ犯スコトヲ得ス(第二百十八條)

條第二百二十四條及第二百二十五條

(犯意) 詐欺ノ陳述タルコトヲ知リツ、之ヲ爲スニ於テハ特ニ原被一方ヲ利シ又ハ之ヲ害スルノ意アルコトヲ要セス(刑事ヲ除ク)故ニ裁判ヲシテ真正公平ノ結果ヲ得セシメノ爲メ詐欺ノ陳述ヲ爲ス場合ト雖モ尙ホ此罪ヲ構成ス然レトモ我刑法ハ(充分ノ理由ナシ)刑事ニ就テハ特ニ被告人ヲ曲庇シ又ハ陷害スルノ故意ヲ以テ偽證スルコトヲ必要トスルカ故ニ民事商事等ニ就テハ犯罪ヲ構成スルモ獨リ刑事ニ就テハ無罪タルノ場合太甚少ナカラサル可シ但刑法ノ規定ニ依ルトキハ曲庇陷害セントスル所ノ罪ノ重罪輕罪若シハ違警罪ナルニ依リ其罪刑ヲ異ニシタルヲ以テ重罪ヲ曲庇陷害スル意アリシトキハ其實輕罪タルモ尙ホ之ヲ重罪ヲ曲庇陷害スルノ意アルモノトセサルヲ得サルニ似タレトモ事件ノ重罪ナルヤ又ハ違警罪ナルヤハ法律上ノ問題ニ屬シ何人ト雖モ之ヲ知ラサル可カラサルモノナルカ故ニ其意ノ如何ヲ問ハス苟モ重罪タルトキハ重罪ヲ曲庇陷害シタルモノト爲シ又輕罪ナルトキハ輕罪ヲ曲庇陷害シタルモノトセサルヲ得ス故ニ事實ノ識不識ニ關スル教唆罪(第百八條)ノ例ニ照シテ之ヲ論

スルコト能ハサルナリ(第二百十八條及第二百二十條)

(物體) 偽證罪ハ立證ノ基本ヲ紊亂スルモノナリ故ニ其詐欺ノ陳述ハ訴訟ノ論局若クハ審問ノ要點ニ重要ナル事實ヲサレサル可カラス即チ

(一) 事實ナルヲ要ス故ニ單ニ證人ノ意見若クハ法律ノ解釋等ニ就テハ詐欺ノ陳述ヲ爲スモ之ヲ偽證ノ罪ニ問フコトヲ得ス然レトモ鑑定人ノ意見ノ如キハ其技術上ノ範圍内ニ於テハ證據トスルコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ意見ニ屬スルモ尙ホ偽證タル可シ

(二) 訴訟ノ争點若クハ審問ノ要點ニ關スルコトヲ要ス語ヲ換ヘテ之ヲ云ハ、證據ト名ク可キ事實ニ屬スルコトヲ要スルモノニシテ證人若クハ鑑定人等ノ陳述ニ係ルモノハ盡ク此犯罪ノ物體タル可キ事實ニ非サルナリ學者往々此意ヲ誤解シ害ヲ生シ得ヘキ事タルコトヲ以テ偽證罪ノ一要件トスレトモ苟モ證據タル範圍ニ屬スル事實タル以上ハ必スシモ害ヲ生シ得ヘキモノタルヲ要セサルナリ然レトモ既ニ前項ニ於テ論述シタルカ如ク現行刑法ハ刑事ニ就テハ特ニ曲庇陷害ノ意アルコトヲ必要トスルカ故ニ必スシモ曲庇陷害ノ結果ヲ發生スルヲ要セサルモ其偽證ニ係ル事實ハ曲庇陷害二者中其一ノ結果ヲ生シ得ヘキ能力ヲ有スルコトヲ必要トシ單ニ證據タル可キ事實ニ屬スルヲ以テ足レリトセス

(所爲) 此犯罪ノ所爲タル陳述ハ真誠ナラサルコト即チ虚言ナルヲ要スレトモ其

陳述スル所ノ事實ハ必スシモ虚妄タルコトヲ要セス事實ハ現ニ眞正ナルモ其陳述ハ尙ホ虚偽タルコトヲ得ヘシ偽證ノ罪ハ詐欺ノ陳述ヲ爲スノ罪ニシテ虚妄不正ノ事實ヲ陳述スルノ罪ニ非ス例ヘハ判官證人ニ向ヒ原被告ハ某月某日ニ云々ノ契約ヲ爲セシヤ否ヤヲ尋問スルニ當リ證人ハ全ク其事實ノ有無ヲ知ラサルニ尙ホ其契約ヲ爲シタル旨ヲ確答シタルトキハ縱令實際ニ於テハ此契約アリ偶然陳述ト其事實トカ相符合スルモ此證人ハ偽證ノ罪ヲ犯シタルモノトセサルヲ得ス何トナレハ其事實ハ虚妄ナラサルモ證據トシテハ詐欺タルヲ免レサルヲ以テナリ然レトモ刑事ニ就テハ法律ニ特ニ曲庇陷害ノ意アルコトヲ要スルカ故ニ詐欺ノ陳述ヲ爲スモ實際其事實ニシテ虚妄ナラサリシトキハ其陳述ハ曲庇若クハ陷害ノ結果ヲ生シ得ヘキ能力ナキモノナルヲ以テ前項ノ

理由ニ依リ偽證罪ヲ構成スルコトナカル可シ但充分自己ノ了知セサル事實ト雖モ裁判所ニ對シ之ヲ確言シタルトキハ適當ノ理由ナクシテ眞確ヲ證スルモノタルヲ以テ詐欺ノ陳述タルコトヲ妨クルコトナシ

(刑罰) 法律ハ民事事件及曲庇陷害ノ區別ニ就キ刑罰ノ差等ヲ設クルコト左ノ如シ(第二百十八條乃至第二百二十六條)

(一) 民事商事及行政裁判ニ關スル偽證ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(二) 被告人ヲ曲庇スル爲メニセル偽證罪ノ刑ハ左ノ如シ

(イ) 重罪ヲ曲庇スル爲メナルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加シ輕罪ニ係ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ違警罪ニ係ルモノハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス

(ロ) 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免レタルトキハ前項ニ照シ一等ヲ加フ

(三) 被告人ヲ陷害スル爲メニセル偽證罪ノ刑ハ左ノ如シ

(イ) 重罪ニ陥ラシムル爲メナルトキハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ輕罪ニ係ルトキハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加シ違警罪ニ係ルトキハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(ロ) 偽證ノ爲メ被告人偽證ノ刑ヨリ重キ刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑ニ反坐ス若シ被告人ノ處セラレタル刑ノ期限内ニ於テ發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シ偽證ノ刑ヨリ降ラサル以上ハ反坐ノ刑ヲ減スルコトヲ得然レトモ偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ニ於テ仍ホ之ヲ反坐スルハ酷ニ失スルノ恐アルヲ以テ一等ヲ減シ未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタルトキハ二等ヲ減ス但此場合ト雖モ被告人ヲ死ニ陥ル、ノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタルトキハ之ヲ死刑ニ反坐シ其未タ執行セサル以前ニ發覺シタルトキハ現ニ死刑ヲ執行シタル場合ト雖モ一等ヲ減ス

(四) 偽證ノ罪ハ其事件裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタルトキハ本刑ヲ

免ス是レ可成此犯罪ノ發覺ヲ速ニシ以テ無罪者ヲ保護スルノ精神ニ出テタルモノナル可シ

誣告ノ罪

第一章 誣告ノ罪

現行刑法ハ誣告罪ヲ以テ殆ト誹毀罪ト同視スレトモ誹毀罪ハ名譽ニ對スル罪ナルカ故ニ誣告罪ト毫末モ關係スル所ナシ學者徃々誣告罪ト誹毀罪トノ區別ニ就キ喋々論述スル所アリト雖モ素ヨリ特ニ之カ説明ヲ要スルモノニ非ス若シ夫レ誣告罪ト誹毀罪トノ區別ヲ論述スルノ要アリトセハ誣告罪ト謀殺罪其他一切ノ犯罪トノ區別ヲ説クモ亦必要ナラム故ニ余ハ今茲ニ單ニ誣告ノ罪ニ付キ其性質如何ヲ見ント欲スレトモ尙ホ一言ノ諸君ニ注意ス可キモノアリ則チ或學者ノ如キハ誣告罪ヲ以テ官ノ搜查權ヲ紛亂スルノ罪トスレトモ是亦大ニ其性質ヲ誤解スルモノナリ何トナレハ此罪タル人ヲ誣告スルモノニシテ單ニ或犯罪ニ付キ不實ノ申告ヲ爲スノ罪ニ非ス若シ夫レ果シテ然ラストセン乎印度刑法ノ主義ニ從ヒ何人ノ果シテ犯人タルヤ否ヲ告グルヲ要セス唯不實ノ事實ヲ構造シテ或犯罪ノ行ハレタルコトヲ告グルモ亦之ヲ誣告ノ罪トセサルヲ得サルニ至ルヘシ

誣告罪トハ不實ナルコトヲ知リツ、犯罪人トシテ人ヲ官ニ申告スルノ所爲ヲ云フ左ニ注意ス可キ一二ノ要點ヲ示サム(第三百五十五條)

(物體) 誣告罪ハ或人ヲ以テ不實ニ犯罪ノ所爲アリタリトスルモノナリ故ニ此犯罪ノ物體タルニハ左ノ條件ヲ必要トス

(一) 申告セラレタル者ハ必ス何某タルコトヲ知リ得ヘキ現存ノ人タルコトヲ要ス死人、想像上作爲セル人又ハ氏名容貌等ノ知レサル者ヲ誣告スルモ其罪ナシ

(二) 犯罪ノ事實ヲ申告スルコトヲ要ス而シテ此犯罪トハ即チ刑法上罪ト認メタル所爲ヲ指示スト雖モ申告上ノ事實ニシテ犯罪タランニハ必スシモ刑罰ニ處セラル可キモノト否トヲ問ハス故ニ不能力者ノ犯罪又ハ既ニ期滿免除ヲ得タル犯罪ニ就キ誣告スルモ仍ホ此罪ヲ構成スルニ足ル可シ

(三) 事實ノ不實ナルコトヲ要ス故ニ如何ニ惡意ヲ以テスルモ申告セラレタル人ニシテ眞ニ犯罪者タルトキハ誣告ノ罪ヲ構成スルコトナシ又其申告ハ必ス事實ヲ以テセサル可カラズ單ニ何某ハ重罪犯又ハ輕罪犯タルコトヲ以テ

スルモ其事實ヲ申告セサル以上ハ此罪ナシ然ルニ或學者ハ輕罪ヲ以テ重罪
犯ト申告スルモ亦誣告罪ヲ構成スルモノトスレトモ苟モ輕罪ノ事實ヲ以テ
重罪ノ事實ニ作爲シタル場合ニ非サレハ之ヲ誣告ト云フコトヲ得ス例ヘハ
眞ニ人ノ物品ヲ竊取シタル者アルニ當リ其竊取ノ事實ヲ詐ラス此事實ヲ以
テ重罪犯ナリトシテ申告スルモ誣告ニ非サル可シ何トナレハ該事實ノ輕罪
ナルヤ將タ重罪ナルヤハ法律上ノ問題ニシテ官署ハ當然之ヲ了知ス可キモ
ノナレハナリ然レトモ其申告シタル事實ハ盡ク不實ナルヲ要セス苟モ重要
ノ事實ナランニハ其幾分ノ不實ナルヲ以テ充分ナリトス例ヘハ有罪ノ事實
ノミチ申告シ其申告ノ事實ハ眞實ナルモ他ニ無罪トナル可キ事實アルヲ隱
掩シタル場合ノ如キ是ナリ

(犯意) 不實ナルコトヲ知リツ、故意ヲ以テ申告シタルトキハ此犯罪ヲ構成スル
ニ充分ニシテ他ニ特別ノ意アルヲ要セス其不實ナルヤ否ヲ確知セス輕忽ニ之
ヲ申告シタル場合モ亦同シ

(所爲) 申告トハ相當官署ニ對シテ告訴告發ヲ爲スナニ云フ

(刑罰) 誣告ハ起訴前ニ於テ自首シタルトキハ本刑ヲ免スト雖モ其起訴後ニ係ル
モノハ偽證罪即チ第二百二十條ノ例ニ依リ誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタ
ルトキハ第二百二十一條及第二百二十二條ノ例ニ照シテ處斷ス(第三百五十五
條乃至第三百五十七條)然レトモ前既ニ述ヘタル如ク此等ノ偽證罪即チ特ニ被
告人ヲ曲庇シ又ハ陷害スルノ故意ヲ要スルモノト單ニ不實ヲ知リツ、申告ス
ルノ故意アルヲ以テ足レリトスル誣告罪トチ同一ノ刑ニ處スルハ能ク權衡ヲ
得タルモノニ非サル可シ故ニ此權衡ヲ得セシメンニハ誣告ノ罪ニ就テモ亦陷
害ノ意アルヲ要ス可キモノトスル乎又ハ偽證罪ニ曲庇陷害ノ意アルコトヲ要
セサルモノトスル乎二者其一ヲ撰ハサル可カラズ

第三章 賭博犯及富籤興行ノ罪

第一節 賭博犯

博奕トハ財物ノ得喪ヲ以テ偶然ノ事爲ニ任スル所ノ勝負事ヲ云フ左ニ此犯罪ニ
就キ注意ス可キ一二ノ要點ヲ示ス(第二百六十一條)

(第一) 凡ソ勝負事ハ其結局ヲ以テ偶然ノ事爲ニ任スルモノト巧拙ニ任スルモノ

賭博犯及
富籤興行
ノ罪
賭博犯

トノ二種ニ區分スルコトヲ得ヘシ巧拙ヲ争フ所ノ勝負事ニ於テハ其勝敗ヲ決スルモノハ常ニ力量、熟練及思慮ノ三者ニシテ角力、玉突、紙牌、圍碁、象棋ノ類ヲ云ヒ偶然ノ事爲ヲ以テ勝敗ノ判定者トスルモノハ雙六、パッセツト、ファロー(共ニ紙牌戲中ノ一ナレトモ勝負ノ巧拙ニ關セサル者)等ノ類ニシテ法律ノ認メテ以テ博奕ノ所爲トスル所ナリ但巧拙ヲ争フ所ノ戲ト雖モ其勝負ノ結果當事者相互ノ間ニ止マテズ他人ノ勝敗ヲ以テ輸贏ヲ決スルノ具トスルニ至リテハ仍ホ之ヲ偶然ノ事爲ニ任シタルモノトセサルヲ得ス

(第二) 勝敗ノ決ハ財物ノ得喪ニ關スルモノニ非サレハ之ヲ博奕ノ所爲トスルコトヲ得ス語ヲ換ヘテ之ヲ云ハ、偶然ノ事爲ノ發生スルト否トハ一方ノ利得ト爲リ一方ノ損失ト爲ル可キモノタルコトヲ要ス然レトモ直ニ消費スルコトヲ得ヘキ飲食物ヲ賭スルハ一時ノ遊戯ニ過キサルモノト爲シ法律ハ罪トシテ之ヲ罰スルコトナシ但我國ノ慣習ニ於テハ苟モ其他ノ財物ヲ賭スルハ巧拙ニ依リ勝敗ヲ決スルモノト雖モ仍ホ之ヲ賭博罪トスルニ似タリ(第二百六十一條但書)

(第三) 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結スルノ罪ノ外通常賭博ノ罪ハ現行犯ニ非サレハ之ヲ罰スルコトナキモノトスルハ從來ノ慣例ニシテ今日亦敢テ異議ヲ唱フル者アルヲ聞カスト雖モ余ハ其何ノ理由ニ出テタルカヲ知ラサルナリ唯其犯罪ノ用ニ供シタル物品ヲ沒收スルハ賭奕ノ現場ニ存在スルモノ、ミニ限ルハ舊律ノ認メタル所我現行刑法モ亦之ヲ襲ヒタルハ其當ヲ得タリト雖モ現行犯ニ非サレハ之ヲ罰セサルモノト爲シ罪ヲ犯シテ其場ヲ逃走スルニ巧ナル者ヲ罰セス拙ナル者ヲ罰スルハ果シテ何ノ採ル所アル乎或ハ刑法第百六十一條ニ「財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者」云々ト明言スルヲ以テ「現ニ」ノ副詞ハ現行犯ヲ指示セルモノト解スルノ說ナキニ非スト雖モ余ハ管ニ之ヲ尋常一様ノ愚說ニアラズトセン唯此非常ナル愚說カ先入主ト爲リ遂ニ今日ノ慣例ヲ釀成セルハ惜ム可シ

(第四) 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結スル罪及財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シ并ニ情ヲ知テ房屋ヲ給與スルノ罪ニ對スル刑罰及現場ニ存在スル賭博ノ器具財物ノ沒收ハ之ヲ刑法ニ規定スト雖モ別ニ賭博犯處分規則ナルモノヲ

設ケ現行犯ト否トキ問ハス全ク之ヲ行政警察官ノ處分ニ一任セシカ其後更ニ之ヲ廢シ再ヒ刑法ニ復シタリ

富籤興行ノ罪

第二節 富籤興行ノ罪

富籤トハ或代價ヲ拂渡シ偶然ノ結果ニ依リ或豫定ノ財物ヲ得有シ若クハ拂渡シタル代價ノ全部又ハ幾分ヲ失フ可キ計畫ヲ云フ故ニ其賭博罪ト異ナル所ハ其失フ所ノモノハ豫定ノ財物ヲ得ントノ合意ノ原因トシテ拂渡シタル代價ノ全部若クハ一部タルニ過キサルト富籤ニ於テハ富籤ノ割合金額等必ス豫メ其僥倖ヲ得ヘキ方法ノ計畫(即チ興行)アルノ要點ニ在リトス是レ今日學者ノ定論ナリ
財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者(即チ富籤ノ計畫ヲ爲シタル者)ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百六十二條)故ニ刑法上ニ於テハ富籤ヲ購買シタル者ヲ罰セスト雖モ特別ノ布告ヲ以テ其購買罪并ニ賣買ノ牙保及幫助者ヲ處罰スルノ方法ヲ定メタリ然レトモ我刑法カ富籤罪ヲ罰スルト歐洲諸邦ノ刑法カ之ヲ罰スルトハ大ニ其精神ヲ異ニスル所アルニ注目セサル可カラズ我刑法ノ之ヲ罰スルハ盜罪殺人罪等

絶對的ノ不正ノ所爲トスルニ在レトモ歐洲諸邦ニ在リテハ官許ヲ得ルニ於テハ富籤ヲ爲スコトヲ得ヘキモノト爲シ官許ナクシテ之ヲ興行シタル者ノミチ罪トセリ蓋シ昔日ノ歐洲諸邦及今日ノ以太利國西班牙國等ニ於テハ富籤ヲ以テ國庫收入ノ一原因ト爲シ富籤免許料ヲ徵收シ又ハ富籤ノ中幾分ノ當籤ヲ政府ノ收入トスル等ノ方法ヲ設ケ太甚タシキハ政府自ラ富籤ヲ興行シテ其利益ヲ收メタルカ故ニ官許ナクシテ富籤ヲ興行スル者ハ政府ノ特權ヲ害スルモノトシテ之ヲ罰シタルニ過キサルナリ然レトモ今日ニ於テハ歐洲ニ在テモ一般ニ私立ノ富籤ヲ許可セス又私立若クハ官立ノ富籤ヲ興行スル場合ハ工業美術ヲ獎勵スルノ目的ニ於テ博覽會ノ殘物ヲ賣却スル等ノトキノミニ限レリ

第四章 猥褻姦淫重婚ノ罪

第一節 猥褻ノ罪

猥褻ノ罪トハ陰陽ニ關係スル醜陋背徳ノ所業ヲ云フ(第二百五十八條 第二百五十九條及第三百四十六條 第三百四十七條)

(主體) 男女ヲ問ハス凡テ猥褻罪ノ主體タルコトヲ得ヘク又男女ハ必スシモ共ニ

猥褻姦淫
重婚ノ罪
猥褻ノ罪

犯スコトヲ要セス

(物體) 此犯罪ノ物體ヲ論スルニ就テハ猥褻ノ公然ナルコトヲ要スルト然ラサル場合トテ區別セサル可カラズ

(一) 犯罪ノ成立ニ公然タルコトヲ要スル場合(第二百五十八條及第二百五十九條)ニ於テハ特ニ直接ナル被害者ナキコトヲ得ヘシ即チ他人ニ關係ナクシテ自ラ猥褻ノ事ヲ行ヒ又ハ獸類ニ對スル醜態ノ如キモノニ在テハ其被害者タル者ナカル可ク夫婦間又ハ承諾ニ出テタル男女若クハ同性間ノ姦淫等ニ於ケルモ亦同シカル可シ

(二) 猥褻ノ公然タルト否トテ問ハサル場合(第三百四十六條及第三百四十七條)ニ於テハ其被害者ノ男子タルト女子タルトヲ論セス必ス特定ノ被害者アル可シ

(犯意) 特ニ淫欲ヲ達セントスル等ノ故意アルヲ要セス單ニ過失ニ非サルヲ以テ足レリトス苟モ故意ニ出テタル所爲ニシテ猥褻ノ性質ヲ帶フル以上ハ其目的ノ如何ヲ問ハサルナリ

(所爲) 猥褻ノ所爲ハ其公然ナルヲ要スル場合ト然ラサル場合トテ區別セサル可カラズ公然タルヲ要スル犯罪ニ於テハ其所爲ノ範圍極メテ廣ク苟モ猥褻ノ性質アル以上ハ姦淫強姦ハ勿論猥褻ノ圖畫其他ノ物品ヲ公然陳列販賣スル等ノ所爲ヲ包含スト雖モ公然ヲ要セサル猥褻ノ所爲ハ唯第三百四十六條及第三百四十七條ノ場合ノミニ限リ姦淫強姦等ニ至リテハ法律ハ之ヲ別種ノ所爲ト爲シ猥褻ノ所爲トシテ其罪ヲ問フコトナシ又右數種ノ犯罪中風俗ヲ害スル冊子圖畫等ヲ販賣スルニハ公然タルヲ要シ從テ其所謂公然ナルモノハ單ニ店頭ニ於テ之ヲ販賣スルヲ謂フノミニシテ秘密ニ之ヲ爲ス以上ハ法律ノ問フ所ニ非サルカ如ク又或特種ノ人ヲ限リテ之ヲ販賣スルハ公然ニ非サルカ如クナレトモ又必スシモ然ラサルモノアリ抑モ公然ニ販賣スルトハ唯營業トシテ之ヲ販賣スルノ謂ニシテ決シテ場所ノ如何ヲ指示シタルモノニ非ス縱令密室ニ於テスルモ又縱令一回タリトモ營業トシテ之ヲ販賣スル者ハ之ヲ刑法ニ問ヒ之ニ反シテ公衆ノ目前ニ於テスルモ營業トシテ販賣セサル以上ハ之ヲ刑法ニ問フコトヲ得サルナリ但法文ニハ公然陳列又ハ販賣シタル者云々ト明言スルヲ

以テ公然ノ文字ハ單ニ陳列ノミニ限リ販賣ニ及ハサルモノトスルトキハ公然ノ文字ハ唯場所ノ公然ナルヲ指示スルモノト解シ而シテ所謂販賣ノ文字ハ營業トシテ販賣スルコトヲ指示スルモノト解スルコトヲ得ヘシ是亦一説ナリ

(刑罰) 公然猥褻ノ所爲ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス又公然ナルト否トヲ問ハス十二歳未満ノ男女ニ對シ猥褻ノ所業ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對スト雖モ暴行強迫ヲ以テ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其十二歳未満ノ男女ニ對シ暴行強迫ヲ用ヰタル者ハ二倍ノ刑ヲ科ス但公然ノ猥褻罪ノ外ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スト雖モ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

姦淫ノ罪

第二節 姦淫ノ罪

姦淫トハ男女ノ結合ヲ云フ現行法ハ之ヲ四種ニ區分ス(第一)幼女姦淫ノ罪(第二)強姦ノ罪(第三)姦通ノ罪(第四)淫行勸誘ノ罪是ナリ幼女姦淫トハ十二歳未満ノ幼女ヲ

姦淫スルノ所爲ヲ云ヒ強姦トハ暴行強迫ヲ用ヰテ婦女ヲ姦淫スルノ所爲ヲ云ヒ姦通トハ有夫ノ婦他人ト姦淫スルノ所爲ヲ云ヒ淫行勸誘トハ十六歳未満ノ男女ノ淫行ヲ結合スルノ所爲ヲ云フ(第三百四十八條乃至第三百五十三條)

(主體) 幼女姦淫及強姦ノ罪ニ就テハ其犯者ハ必ス男子タル可シ姦通罪ハ有夫ノ婦及其姦淫ヲ爲シタル對手ノ男子タル可シ淫行勸誘ノ罪ハ男タリ女タルヲ問ハス何人ト雖モ之ヲ犯スコトヲ得ヘシ但夫ハ其婦ニ對シ又ハ女子ハ女子ニ對シテ強姦ノ罪ヲ犯スコトヲ得ザルモ其共犯タルコトヲ妨ケス何トナレハ強姦ノ罪ニ於テハ現ニ局處ヲ侵ス者ノミ其犯罪人タルニ限ラサルヲ以テ夫ハ他人ニ共力シ他人ヲシテ其婦ヲ姦淫セシムルコトヲ得ヘシ女子ハ他ノ男子ヲ器械トシ又ハ之ニ共力シ男子ヲシテ局處ヲ侵サシムルコトヲ得レハナリ

(物體) 姦通罪ニ就テハ被害者ハ夫タル者タル可シ強姦及幼女姦淫罪ニ就テハ必ス女子タル可シ然レトモ單純ナル強迫罪ノ外被害者ニシテ始メヨリ任意ノ承諾ヲ爲シタル場合ニ於テハ全シ強姦ノ罪ヲ成立スルコトナカル可シ故ニ娼妓其他賣淫者ニ對シテハ強姦ヲ爲スコトヲ得ヘキモ夫ハ其婦ヲ強姦スルコトヲ

得ス何トナレハ夫婦ノ間ニ於テハ法律上常ニ任意ノ承諾アルモノニシテ離婚
スルニ非サレハ此承諾ヲ取消スコトヲ得スト雖モ娼妓其他ノ賣淫者ハ何時タ
リトモ随意ニ一旦與ヘタル承諾ヲ取消スコトヲ得ルカ故ニ此承諾ヲ取消シタ
ル以上ハ強姦罪ノ成立ヲ妨シ可キ條件ナケレハナリ

(手段) 強姦罪ハ必ス暴行強迫ノ手段アルコトヲ要ス然レトモ此手段ニシテ存在
スルトキハ必スシモ婦女ノ承諾ナキモノニ非ス就中強迫ノ如キハ概テ承諾ア
ル可キモノタルハ既ニ汎論ニ於テ詳述シタル所ニシテ強姦罪ハ唯婦女ニ任意
ノ承諾ナキモノニ過キサルナリ學者往々暴行ニ係ル場合ノミヲ想像シ強姦罪
ヲ構成スルニハ婦女ニシテ引續キ間斷ナキ抗拒ヲ試ミタルコト又ハ犯者ト婦
女トノ力量ニ重大ノ差等アルコト等ヲ要ストスル者ナキニ非サレトモ是レ概
テ強迫ニ係ル場合ヲ看過シタルノ謬説タリ暴行強迫ノ外藥酒等ヲ用井人ヲ昏
睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者モ亦強姦ヲ以テ論スルコトハ
法文ニ明定スル所ナレトモ睡眠ニ乘シ又ハ詐欺ノ手段ヲ用井テ姦淫シタル者
ヲ包含スルコトナシ

(所爲) 交媾ニハ男子ノ生殖器ニ依リテ多少ノ没入ヲ爲シタルコトヲ要スルモ昔
日ノ法律ノ如ク必スシモ注射(Injunctio Seminis)アルコトヲ要セス何トナレハ今日
ノ法律ハ強姦ヲ以テ血統ヲ紊ルモノトスル封建制度ノ主義ヲ固守スルモノニ
非サレハナリ但此没入ヲ要スルノ一事ヲ以テ之ヲ身體ニ對スル所爲トスルコ
トアル可カラズ其身體ニ對シテ苦痛ヲ與ヘタルト否トハ法律ノ間フ所ニ非サ
ルナリ

(犯意) 猥褻罪ハ其猥褻タル所爲ヲ行ハントノ故意アルヲ要シ姦淫罪ハ没入ノ結
果ヲ見ントスルノ故意アルヲ要ス故ニ没入ノ結果ヲ見ントスルモノニ非サレ
ハ之ヲ姦淫罪トスルコトヲ得ス

(刑罰) 十二歳以下ノ幼者ヲ姦淫スルノ罪及十二歳以上ノ婦女ニ對スル強姦罪ハ
輕懲役ニ處シ十二歳未滿ノ幼女ニ對スル強姦罪ハ重懲役ニ處シ姦通ノ罪ハ六
月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十六歳ニ滿タサル男女ノ淫行ヲ勸誘スル罪ハ
一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但淫行
勸誘ノ罪及公然ノ猥褻罪ヲ構成スル場合ヲ除クノ外強姦姦淫ノ罪ハ被害者又

ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スト雖モ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ毆打
創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷シ強姦ニ因テ癡篤疾ニ致シタル者ハ有期
徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス又姦通ノ罪ハ本夫ノ告訴アルニ
非サレハ其罪ヲ論セス(第三百五十條乃至第三百五十三條)

重婚ノ罪

第三節 重婚ノ罪

重婚ノ罪トハ配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲スノ所爲ヲ云フ(第三百五十四條)

(主體) 此罪ノ主體タル可キモノハ配偶者アル者ニ限リ我刑法ニ於テハ知リツ、
配偶者アル者ニ婚シタル未婚者ヲ罰スルコトナシ又重婚ヲ許シタル邦國即チ
一夫數婦若クハ一婦數夫ヲ認メタル諸國ニ於テ其國ノ法律ニ從ヒ既ニ婚姻シ
タル者ハ日本ノ法律ニ於テ數婦數夫ヲ認メサルモ日本ニ於テ婚姻ヲ爲シタル
モノニ非サレハ刑法ニ依リ之ヲ處罰スルコト勿ル可シ

(物體及所爲) 重婚ノ罪ハ敢テ姦淫ノ所爲アルヲ要セス前後ノ結婚共ニ公認又ハ
法律上ノ儀式手續ヲ盡シタルノミニテ足レリ故ニ此所爲ハ第一ノ婚姻ヲ取消
サ、ル以前ニ第二ノ結婚ヲ爲スノ所爲タルニ過キサルヲ以テ縱令第一ノ婚姻

ハ實際無効タルモ相當ノ儀式手續ヲ經テ其婚姻ヲ取消サ、ル以上ハ此犯罪ヲ
構成スルニ充分ナル可ク從テ其公訴ノ期滿免除モ亦二様ノ婚姻中其一ヲ取消
シタル日ヨリ起算セサルヲ得ス但メイ氏ノ如キハ反對ノ說ヲ主張シ第一ノ婚
姻ニシテ無効タル以上ハ第二ノ婚姻ヲ爲スモ重婚ノ罪ナキモノトスレトモ若
シ氏ノ說ニ從フトキハ苟モ第一ノ婚姻ニシテ無効タル以上ハ其無効ノ裁判言
渡又ハ其解除ヲ待タズシテ法律ハ自由ニ第二ノ婚姻ヲ爲スコトヲ許スモノト
セサルヲ得サルニ至ル可シ

(刑罰) 重婚罪ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ
附加ス

第七款 社會ノ信仰ヲ害スル罪

第一章 宗教ヲ蔑如スル罪

宗教ヲ蔑如スル所爲ハ禮拜所ニ對シ公然不敬ヲ爲スノ罪及說教若クハ禮拜ヲ妨
害スルノ罪ヲ包含ス(第二百六十三條)

(第一) 禮拜所ニ對スル不敬罪(Crimen laesae majestatis divinae)ハ信者ノ宗教上ノ感覺ヲ

社會ノ信
仰ヲ害ス
ル罪
宗教ヲ蔑
如スル罪

害スルノ所爲タルヲ以テ公然即チ信者ノ出入ス可キ禮拜所ニ於テ神佛ヲ汚辱ス可キ不敬ノ所爲アルモノニ非サレハ此罪ニ問フコトナシ然レトモ其手段ニ至リテハ敢テ言語文書若クハ暴行ニ出ツルト否トヲ問ハサルナリ

(第二) 説教及禮拜ヲ妨害スル罪ハ教導ヲ行フノ自由ヲ妨害スルノ所爲タルヲ以テ必スシモ公然タルコトヲ要セスト雖モ説教者信者等ニ對シテハ暴行強迫ノ手段ヲ用ヰタルモノニ非サレハ此罪ヲ以テ論スルコトヲ得ス但公然ノ説教若クハ禮拜ニ係ルトキハ暴行強迫ノ手段ナキモ尙ホ不敬ノ罪ヲ構成スル場合甚タ多カラン

(第三) 不敬ノ罪ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ妨害ノ罪ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

死屍ノ毀棄及墳墓發掘ノ罪

第二章 死屍ノ毀棄及墳墓發掘ノ罪

(物體) 此犯罪ノ物體ハ死屍及墳墓トス(第二百六十四條及第二百六十五條)

(一) 死屍トハ一般ニ人ノ遺骸ヲ云フモノナレトモ法律上ニ於テハ之ヲ二種ニ區別スルコトヲ要ス第一ハ埋葬ス可キ死屍ニシテ未タ埋葬セサル所ノ死骸

ノ全體ヲ指ス故ニ既ニ埋葬シタル死體及人ノ所有物タルコトヲ得ヘキモノ即チ骸骨骨片其他死體ノ一部分並ニ火葬シタル遺骨ヲ包含スルコト勿ル可シ第二ハ既ニ埋葬シタル死屍ニシテ其白骨タルト新鮮ナルト又全部ナルト一部ナルトヲ問フコトナシ

(二) 墳墓トハ人ノ死體ヲ永遠ニ安置セル場所ヲ謂フ故ニ(第一)人ノ死體ヲ埋葬セサルモノ即チ猫塚犬塚等(第二)現ニ死體ヲ安置セサルモノ即チ名譽又ハ裝飾ノ爲メニ建立セル碑若クハ未タ死體ヲ埋メサル墓(第三)永遠ニ安置セサルモノ即チ一時假リニ死體ヲ納メタル場所等ヲ包含スルコト勿ル可シ但永遠ニ安置スルコトヲ要スルヤ否ノ點ニ就テハベルネル氏其他ノ學者ニシテ往々反對ノ説ヲ主唱スルモノナキニ非スト雖モ所謂假埋葬ナルモノハ現ニ將來之ヲ改葬スルコトノ分明ナルモノニ非サルヲ以テ之ヲ永遠ニ安置セルモノト云ハサルヲ得ス若シ之ニ反シ果シテ永遠タルコトヲ要セストセハ遂ニ死體ノ存在スル所ハ盡ク之ヲ墳墓トスルカ如キノ不權衡ヲ生スルニ至ル可シ

(所爲及犯意) 毀棄ノ所爲ノ何物タルハ既ニ財産毀損ノ罪ヲ論スルノ章ニ於テ論述セル所ト同シク發掘ノ所爲ハ別ニ論述スルヲ要セスシテ自ラ明了タリト雖モ凡テ此等ノ所爲タル權利ナクシテ之ヲ爲シタルコトヲ要ス故ニ死屍ヲ毀棄シ又ハ墳墓ヲ發掘スルモ法律上ニ許容シタル火葬又ハ埋葬ノ權アル者既ニ埋葬シタル遺骨ヲ改葬スルノ所爲又ハ埋葬ヲ爲スニ必要ナル所爲タルトキハ充分ナル權利アルモノタルヲ以テ之ヲ此罪ニ問フコトヲ得サルナリ現ニ米國ベトナム州ノ裁判所ハ此理ヲ推シテ實ニ嚴格ナル一裁判ヲ下シタルノ實例アリ即チ同裁判所ハ妻ハ夫ノ死後ニ於テハ夫婦ノ關係全ク消滅スルカ故ニ妻ハ毫モ夫ノ死體ヲ左右スルノ權利ナキモノト爲シ良意ヲ以テ夫ノ遺骨ヲ改葬シタルノ所爲ヲ以テ墳墓發掘ノ罪アルモノト認メタリ然ルニ學者往々此犯罪ニ就テハ此一大要件アルコトヲ忘却シ改葬其他埋葬上必要ナル死體毀損ノ所爲ニ就テハ特ニ惡意ナキモノト爲シ以テ漸ク之ヲ不論罪トスルノ一理由ヲ求メ得タリトスル者アリ知ラス其所謂惡意ナルモノハ如何ナル特種ノ意思ヲ指示スルモノナル乎全ク埋葬ノ權利ナキ外人ト雖モ改葬スルノ良意ヲ以テ墳墓ヲ發掘シ死屍ヲ暴露シタル者モ仍ホ其罪ナキモノトスル乎若シ又權利アル者ト雖モ不便ノ場處ニ移スノ惡意ヲ以テ改葬シタルトキハ仍ホ其罪アリトスル乎余ハ此犯罪ニ就テハ特ニ斯ル惡意アルヲ必要トセス單ニ死屍ヲ暴露スルノ故意アルヲ以テ足レリトシ唯權利ナクシテ之ヲ行フタル者ヲ處罰ス可キモノト思惟スルナリ

(刑罰) 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄スル罪ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ既ニ埋葬シタル死屍又ハ棺槨ヲ暴露スルノ罪ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加シ因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ總則ニ照シテ其未遂犯ヲ問フモノトス(第二百六十六條)

第四編 皇室ニ對スル罪

第一章 皇室ニ對スル犯罪ノ性質

皇室ニ對スル犯罪ハ在位ノ天皇ニ對スルト其他ノ皇族ニ對スルトノ區別ニ依リ其性質上國事犯ニ屬スルモノト常事犯ニ屬スルモノト二者ヲ包含ス苟モ一

皇室ニ對スル罪
皇室ニ對スル犯罪ノ性質

君主國ナランニハ其政體ノ立憲制タルト專治制タルトヲ問ハス在位ノ君主ハ當然國家ノ元首ニシテ有體ナル君主ノ一身ハ即チ主權者ナリ有體ナル君主ノ名譽ハ即チ主權者ノ名譽ナリ政體ノ名義ノ如何ヲ問ハス主權ニシテ一ノ法人ニ存セシ乎是レ共和國タリ寡人專治ノ國タリ之ヲ君主國ト謂フ可カラス故ニ犯罪ノ目的ハ國事ニ出ツルト私事ニ出ツルトヲ問ハス苟モ一國ノ君主タルコトヲ知リツ、之ヲ害スルトキハ其所爲タル直接ニ主權者ヲ害スルノ罪ニシテ其名譽ヲ損スルモノハ主權者ノ威嚴ヲ損スルノ罪ナリ刑ノ寬嚴如何ヲ問ハス決シテ之ヲ以テ一私人ニ對スルノ犯罪トスルコトアル可カラス現世紀ノ初メニ於ケル學者ハ往々君主ニ公私二様ノ資格アルコトヲ認メ君主ノ一私人タル資格ニ對シ私事ニ出ツルノ目的ヲ以テ之ニ危害ヲ加フルハ國事犯ニ非ストセル者アリシト雖モ君主ニ私人タルノ資格アリトスルハ君主ヲ以テ恰モ法人ノ如クニ誤解セルニ原因ス若シ此說ヲシテ眞ナラシメハ君主ハ私人ノ資格ヲ以テ諸般ノ責任ヲモ負擔シ遂ニ刑法上ノ責任ヲモ負ハサル可カラサルニ至ル可シ又犯罪ノ目的ノ國事ニ係ルト否トヲ以テ國事犯ト常事犯トヲ區別セントスルカ如キハ犯罪ノ目的ト故意ト

ノ區別ヲ混同スルモノニシテ縱令私怨ニ出ツルモノ一國ノ君主タルコトヲ知リツ、君主ヲ空フスルモノハ即チ主權者ヲ空フスルノ故意ヲ以テ其犯罪ヲ行フモノタルコトヲ知ラサルニ原因ス要スルニ君主ニ對スル犯罪ヲ以テ一ノ國事犯トセサル可カラサルハ管ニ理論ニ於テ然ルノミナラス我國ニ於テハ古來沿革ノ自ラ然ラシムル所大寶律令ノ所謂大逆罪ナルモノハ眞ニ帝國ニ於ケル國法ノ原理ヲ得テ英獨諸王國ニ於ケル現行刑法ニ於ケル規定ト暗合シ東西其軌ヲ一ニセルモノ蓋シ偶然ニ非サルナリ獨リ我現行刑法ニ至リテハ其草案ノ共和國臣民ノ手ニ成リシカ故ニヤ公然大逆罪ナル一種ノモノヲ認メス爲メニ刑法上君臣ノ名分ヲ正フスルコト能ハサリシハ惜ム可シ

之ニ反シ三后皇太子及其他ノ皇族ノ如キハ在位ノ天皇ニ服從スルノ義務アル臣民ナレハ素ヨリ之ヲ主權者ト同視スルコトヲ得ス此等ノ皇族ニ對スル犯罪ハ常人ニ比シテ大ニ其刑ヲ加重スルハ兎モ角其罪質ニ至リテハ之ヲ常事犯ニ屬スルモノトセサル可カラス故ニ學理上ヨリシテ現行刑法ヲ論述スルニハ皇室ニ對スル犯罪ハ之ヲ國事犯ニ屬スルモノト常事犯ニ屬スルモノトノ二種ニ區別スルコ

トヲ要ス

然レドモ在位ノ天皇ニ對スル危害及不敬ノ罪ヲ以テ國事犯ニ屬スルモノトスル
 トキハ逃亡國事犯人ハ各國相互ニ之ヲ引渡スコトナキヲ以テ國際法ノ通則トス
 ルカ故ニ皇室ニ對スル大罪ヲ犯シ外國ニ逃亡シタル者アルニ當リテ逃亡犯罪人
 引渡條約ニ依リ外國政府ニ對シテ其犯者ノ引渡ヲ請求スルコト能ハサルカ如キ
 不都合ヲ發生スルノ恐レアラソ然レトモ一方ニ於テハ萬國ノ共ニ奉ス可キ國際
 法ハ各國ニ固有ナル憲法政體ノ如何ニ拘泥シ民主國タルト君主國タルトヲ區分
 スルコト能ハサルヲ以テ國際法上ニ於テハ條約文ノ解釋モ自ラ其方法ヲ異ニシ
 又一方ニ於テハ特約ヲ以テ此等ノ場合ヲ規定シ君主ニ對スル謀故殺犯モ尙ホ之
 カ引渡ヲ爲スコト甚々難カラサルヲ以テ必スシモ此重大ナル犯者ノ引渡ヲ請求
 スルコトヲ得ヘキ方法ナキニ非ス

第一章 皇室ニ對スル國事犯

皇室ニ對スル國事犯

皇室ニ對スル國事犯ハ在位ノ天皇ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスルノ罪及不
 敬ノ所爲ヲ爲スノ罪ヲ包含ス(第百十六條及第百十七條)之ヲ分析説明スルコト左

ノ如シ

(主體) 此罪ヲ犯スコトヲ得ヘキ者ハ日本皇室ニ對シ誠忠ヲ盡スノ義務アル者ニ
 限レリ即チ日本人民ハ外國ニ在ルト日本ニ在ルトヲ問ハス其身分上ヨリ此義
 務ヲ負ヒ外國人ハ日本ニ滯在中日本國土上ノ管轄權ヨリ此義務ヲ負フ故ニ外
 國ニ在ル外國人外國ヨリ日本ノ皇室ニ對スル罪ヲ犯シ又ハ外國ニ於テ外國行
 在中ニ此罪ヲ犯スモ敢テ我刑法ヲ以テ問フコトヲ得ヘキモノニ非ス然レトモ
 其犯人ニシテ我邦内ニ來ルトキハ我刑法ヲ以テ之ヲ處斷スルコトヲ得ヘキハ
 既ニ汎論ニ於テ論述シタル所ナリ

(物體) 此犯罪ノ物體タルヲ得ヘキモノハ在位ノ天皇ノ生命、身體、自由及名譽トス
 即チ

(一) 在位ノ天皇ヲラサル可カラス三后皇太子及其他ノ皇族ニ對スル犯罪ハ常
 事犯ニシテ國事犯ニ非サルナリ其太上天皇ニ對スルモノニ在リテハ或ハ多少
 ノ議論アル可シト雖モ皇室典範ノ定ムル所ニ依レハ天皇ハ如何ナル場合ニ於
 テモ自ラ其位ヲ去リ玉フコト能ハサルヲ以テ太上天皇ナルモノハ決シテ將來

ニ存シ得ヘキモノニ非ス

(二) 攝政ハ君主自ラ政務ヲ行フコト能ハサルトキ假ニ國政ヲ行フ者ナルカ故ニ攝政ニ對スル罪ハ國事犯ニ非ス但攝政ノ身分ハ常ニ皇族タル可キヲ以テ皇室ニ對スル常事犯ヲ構成シ得ヘシ

(三) 篡位ノ君主ハ法律上正當ノ主權者ニ非サルヲ以テ之ニ對スル國事犯ナキハ當然ナリ何トナレハ篡位ノ君主ハ適法ナル即位ノ條件及在位ノ條件(即位ノ條件トハ君主ノ崩御讓位廢位等ニテ君位ノ缺ケタルトキ又ハ君位相續法ニ依リ當然君主ノ位ニ即クテ云ヒ在位ノ條件トハ即位ノ後君主タル資格ノ喪失スルヲ云フ在位ノ期限ヲ設ケタル邦國ニ於テハ任期滿限ノ後仍ホ位ニ在ル者ハ篡位ヲ以テ論スルノ類ナリ然レトモ我帝國ニ於テハ天皇ハ先帝ノ崩御ノトキニ於テ皇位繼承法ノ定ムル所ニ依リ位ニ就カセ玉ヒ又先帝崩御ノトキニ非サレハ位ヲ去リ玉フコトヲ許サ、ルヲ以テ在位ノ條件ナルモノアルナキハ皇室典範ニ於テ明白ナリ)ヲ欲キタルモノニシテ多クハ國法ヲ以テ處刑ス可キ犯罪者ナレハナリ然レトモ國家ノ革命騷亂ノ時運ニ際シテハ往々實力ヲ以テ此地

位ヲ奪ヒ得テ遂ニ正當ノ君主タルニ至ル者外國ニ於テ往々其例ヲ見ル所ナリ

(四) 此種ノ犯罪ハ天皇ノ御一身ニ對スルモノナレハ其物體ハ生命身體自由若クハ名譽ニシテ財産ヲ包含スルコトヲシテ生命身體及自由カ危害罪ノ物體タルヲ得ヘキモノタルハ特ニ茲ニ説明ヲ要セスト雖モ不敬罪ノ物體タル名譽ニ至リテハ即チ君主タルノ地位ニ相當ス可キ威嚴尊榮ヲ包含スルモノニシテ通常人ニ對シテ誹毀罪又ハ侮辱罪ヲ構成セサルモノト雖モ尙ホ不敬罪タルヲ免レサルコト甚ダ少ナカラサルヲ注意セサル可カラス

(五) 先帝及皇陵ニ對シテハ危害ノ罪ナシト雖モ不敬罪ニ至リテハ即チ之ヲ在位ノ天皇ニ對スルモノト爲サ、ルヲ得ス皇族ニ對スル不敬罪ト雖モ其害在位ノ天皇ニ及フモノモ亦同シ

(六) 外國ノ君主ハ我日本臣民ノ主權者ニ非サルヲ以テ外國ノ君主ニ對シテ此罪ヲ犯スコト能ハサルハ明白ナリ

(犯意) 此種ノ罪ヲ構成スルニハ危害若クハ不敬ヲ加フルノ故意アルヲ要シ過失

ニ係ル罪ヲ問ハス然レトモ古代ノ學者カ君主ニ對シ敵意ヲ挾ムコトヲ要スト
セルノ説ハ危害ノ罪ヲ以テ必ス國事ニ關スル目的ニ出テサル可カラストセル
ノ誤謬ニ原因セリ但君主タルコトヲ知ラスシテ犯シタル者ハ故意ナキニ非ス
ト雖モ罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラサルモノナレハ通常ノ犯罪トシテ之ヲ罰スル
ノ外他ニ其道ナキヲ以テ常人ニ對シテモ亦罪トナル可キ所爲ニ非サレハ在位
ノ天皇タルコトヲ知ラスシテ犯シタル者ハ全ク之ヲ不問ニ附セサルヲ得サル
可シ

(所爲) 法文ニ「危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者」ト明言スル以上ハ既遂犯ハ勿論
未タ既遂ニ至ラサル豫備陰謀ノ所爲ト雖モ尙ホ此罪ヲ構成スルニ足ル可ク不
能犯ニ至リテハ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスルコトヲ得サルヲ以テ素ヨリ罪ト
シテ之ヲ論スルコトヲ得サルハ當然ナリ然レトモ不敬罪ニ就テハ法文ハ單ニ
不敬ノ所爲ト云フニ過キサルヲ以テ恐ラクハ未遂以前ノ所爲ヲ罰スルコトヲ
得サル可シ

(手段) 犯罪ノ手段如何ニ就テモ法文ハ特ニ之ヲ規定スルコトナキヲ以テ如何ナ
ル手段ト雖モ此犯罪ヲ構成スルコトヲ得ヘシ不敬罪ノ如キモ亦必スシモ公然
ノ演説刊行ノ文書等通常人ノ名譽ニ關スル犯罪ニ必要ナル手段ヲ用ユルコト
ヲ要セス

(刑罰) 危害ノ罪ハ死刑ニ處シ不敬ノ罪ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十
圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其輕罪ノ刑ニ止マルモノト雖モ仍ホ六月以
上二年以下ノ監視ニ附ス

第三章 皇室ニ對スル常事犯

皇室ニ對スル常事犯ハ在位ノ天皇ノ外其他ノ皇族ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘン
トスルノ罪及不敬ノ罪ノ二種トス(第百十六條乃至第百十九條)而シテ其犯罪ノ主
體ニ就テハ特ニ講ス可キモノナク所爲及手段ニ就テハ皇室ニ對スル國事犯ノ場
合ト異ナル所ナシ

(物體) 此犯罪ノ物體ハ太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、親王、
親王妃、內親王、王、王妃、及女王トス然レトモ此等ノ皇族ニ對スル犯罪ハ常事犯ヲ
リ縱令其刑ニ至リテハ在位ノ天皇ニ對スルモノト殆ト同一ナルニモセヨ此等

皇室ニ對
スル常事
犯

ノ皇族ト雖モ在位ノ天皇ニ對スル臣民タル以上ハ決シテ之ヲ國事犯トスルコトヲ得サルハ前章ニ於テ既ニ論述セル所ノ如シ而シテ若シ夫レ之ヲ常事犯トセン乎或ハ外國ノ皇族ニ對スル犯罪モ亦我皇族ニ對スル犯罪ト等シク之ヲ罰スルコトヲ得サルニ非サル歟抑モ皇族ナル名稱ハ或事實即チ或身分ヲ有スル者ノ總稱ナリ勳位ノ如ク國家ヨリ與ヘタル貴號ニ非サルナリ若シ又強テ之ヲ國家ノ與ヘタル貴號ト同視センカ即チ一ノ公權ナリ皇族ニシテ罪ヲ犯セル者アルトキハ附加刑トシテ皇族タルノ貴號ヲ剝奪セサルヲ得サルニ至ル可シ故ニ皇族ナル名稱ハ單ニ或身分ヲ有スル者ノ總稱トセサルヲ得スト雖モ之ヲ以テ單ニ身分トスルトキハ外國ノ皇族ト雖モ事實上此身分ヲ有スル以上ハ我法律上ニ於テモ亦之ヲ皇族ト認メサルヲ得スシテ從テ皇族ニ對スル罪トシテ外國ノ皇族ニ對スル罪ヲ處斷セサルヲ得ス論者或ハ云ハン外國ノ皇族ヲ我國ニ於テモ亦皇族ト認ムルハ朝廷ノ儀式上ノ事タリ之ヲ法律上ノ關係ニ及ホスコトヲ得スト然レトモ一國カ他國ノ皇族ヲ皇族ト認ムルハ國際法上ノ通規ニシテ決シテ儀式上ノ事ニ止マラサルナリ現ニ外國ノ君主ト雖モ日本ニ在留スル

間ハ我帝國内ニ犯シタル罪ヲ問ハサルハ法律上ニ君主ノ身分ヲ認ムルモノニ非スヤ故ニ外國ノ君主及皇族ニ關スル罪ハ之ヲ國事犯ノ性質アルモノト謂フコトヲ得サルモ其身分上ヨリ皇族ニ對スル常事犯トシテ之ヲ罰スルコト能ハサルモノニ非サル可シ然レトモ今日ノ實例ニ於テハ我法庭ハ決シテ之ヲ外國ノ皇族ニ及ホスコトナシト雖モ法庭ハ果シテ能ク此說ヲ審查シタルヤ否ハ予ノ知ラサル所ナリ

(犯意) 此罪ヲ構成スルニハ必ス危害ヲ加ヘ又ハ不敬ヲ加フルノ故意アルヲ要ス然レトモ在位ノ天皇以外ノ皇族ニ對スル罪ニ至リテハ縱令國事ニ關スル目的ニ出ツルモ仍ホ其罪質ニ至テハ之ヲ常事ニ屬スルモノト云ハサルヲ得ス

(刑罰) 三后皇太子ニ對スル危害ノ罪及不敬罪ハ在位ノ天皇ニ對スルモノト同一ノ刑ニ處シ其他ノ皇族ニ對シテハ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其輕罪ノ刑ニ係ルモノト雖モ尙ホ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

第五編 國家ニ對スル罪

第一款 國事犯

第一章 國事犯ノ性質

國家ニ對スル罪
國事犯
國事犯ノ性質

國事犯ナル語ハ學者之ヲ廣狹二義ニ用ユ其廣義ニ於テハ在位ノ天皇ニ對スル罪、朝憲紊亂及邦土僭竊ノ罪、外國ニ對スル罪及公權ノ施行ニ抗拒スル罪ノ四者ヲ指シ其狹義ニ於テハ君主ニ對スル危害ノ罪及朝憲紊亂及邦土僭竊ノ罪ヲ謂フ其狹義ニ於ケルモノ或ハ又之ヲ叛逆ノ罪ト稱ス我刑法ニ於テモ亦專ラ内亂外患ニ關スル罪ノミヲ以テ通常之ヲ國事犯トスルモノ、如シ故ニ余ノ特ニ茲ニ論セントスル所ノモノモ亦狹義ニ於ケル國事犯ノ性質如何ニ在リ

古來學者ノ下シタル國事犯ノ定義ハ區々ニシテ一定セス其數モ亦甚タ少ナカラスト雖モ或ハ曖昧模糊トシテ其眞意ヲ明カニスルニ足ラス或ハ陳腐ノ偏見ヲ固守シ近世ノ理論ニ適セサルモノ比々皆然リトス蓋シ此犯罪タル頗ル複雜ニシテ完全ナル定義ヲ下スコト甚タ容易ナラサルニ由ルモノアリト雖モ學者汎ク國法ノ原理ヲ究メス單ニ刑典ノ條項ニ拘泥スルニ職由セスンハ非サルナリ余ハ今近

世ニ於テ適正ニシテ又最モ學理ニ適シタルモノトセラレタル博士クニツキニキ一氏ノ定義ヲ掲ケ以テ之カ解説評論ヲ試ミン氏ノ定義ニ曰ク「國事犯トハ國家ノ自斷權ヲ侵害シ以テ現存スル憲法國土ヲ變亂シ又ハ國主ノ一身ヲ犯スノ所爲」ヲ云フト

(第一) 國事犯ヲ以テ國家ノ存立ヲ害スルノ所爲トスルハ現世紀ノ初メニ於ケル刑法學者ノ所說ニシテ今日學者ノ容レサル所ナリ何トナレハ國家ハ國事犯者ノ決シテ消滅スルコトヲ得ヘキモノニ非サレハナリ例ヘハ君主國ヲ變シテ共和國ト爲スカ如キ皮相ノ見ヲ以テスレハ新國ノ創設ト同時ニ舊國ノ滅亡ヲ來スニ似タレトモ此等ノ場合ニ於テハ單ニ政體ノ變更ヲ生シタル迄ニシテ新政府ハ舊政府ノ有セル一切ノ權利ヲ相續スルニ過ギサルナリ若シ夫レ政體ノ變更ハ同時ニ其國家ヲ滅亡スルモノトセン乎苟モ一國ニシテ正當ニ憲法ヲ改正變更スルコトアルモ常ニ舊國ヲ消滅シテ新國ヲ創設シタルモノト爲シ舊國ノ權利義務ハ新國ノ更ニ與リ知ラサルモノトセサルヲ得サルノ不都合ヲ免レサルニ至ル可シ以テ國事犯者ハ決シテ國家ノ存立ヲ害スルモノニ非サル所以ナ

知ル可シ故ニ博士フーデル氏ノ如キハ正當ノ手續ニ依ラサル憲法ノ變更ハ國家自身ノ存在ヲ滅スルニ非スシテ唯國家ノ一個人タル資格ヲ損害スル者ト爲シ而シテ其一個人タル資格ノ損害ハ當然國家自斷權ノ侵害ヲ來ス可キ者トセリ氏ノ言ニ曰ク「國家ニシテ若シ自斷ノ權ナクハ國家ハ即チ一個人タル資格ヲキモノニシテ毫末ノ意思ナキ死物ノミ然ルニ一個人タル國家ハ一定ノ規則ニ從ヒ活動ス可キモノタルヲ以テ此等ノ規則ヲ總括シテ憲法ト云ヒ憲法ヲ變更セシ爲メ國家ノ一個人タル資格ニ對シテ暴力ヲ加フル者ハ即チ國家ノ固有セル自斷ノ權ヲ侵害スルモノナリ」ト故ニ國事犯ノ物體タル可キモノハ唯國家ノ自斷權ノミニシテ敢テ其他ニ非サルナリ蓋シ國家ニシテ苟モ一個人タル以上ハ國家ハ其意思ニ從ヒ自由ニ活動スルノ權利勿ル可カラサルニ夫ノ國事犯者ナル者ハ自己ノ意思ヲ以テ國家ノ意思ニ代ヘ以テ國家ノ自由ニ決定處斷スルノ權ヲ侵害スルモノナリ故ニ苟モ此權ヲ侵害スルノ所爲タル以上ハ必スシテ兵亂ノ手段ニ依ラスト雖モ仍ホ之ヲ國事犯トセサルヲ得サル可シ例ヘハ在朝ノ大臣國會ノ議決ヲ待タスシテ法律ヲ頒布シ之ヲ實行シタル場合ノ如キハ

一己ノ私意ヲ以テ國家ノ意思ニ代ヘ以テ國家固有ノ自斷權ヲ侵害シタルモノナレハ之ヲ一ノ國事犯ト云ハサルヲ得サルナリ之ニ反シテ犯罪ノ手段ハ縱令一大戰爭ニ依ルモ國家ノ自斷權自身ヲ侵害スルコトナクハ縱令其自斷權ノ執行ニ抗スルモ之ヲ國事犯トスルコトヲ得サル可シ例ヘハ立法權行政權又ハ司法處分ノ施行ニ抗敵スルニ兵ヲ以テスルモ毫モ國家ノ自斷權ヲ侵害スルモノニ非サレハ之ヲ以テ國事犯トスルコトヲ得サルカ如シ

(第二) 君主邦土及憲法ノ三者ハ國家ノ要素ナリ或一種ノ哲學派ハ邦土ハ無形人ノ成立ニ必要ナルモノニ非サルヲ以テ邦土ナキ國家モ亦存在スルコトヲ得ヘシトスレトモ空中ニ國家ヲ構造スルコトヲ得サル以上ハ邦土并ニ住民ヲ以テ國家ノ現存ニ必要ナルモノトセサルヲ得ス故ニ苟モ此三者ノ一ナクハ國家ノ自斷權モ亦空シカル可シ語ヲ換ヘテ之ヲ云ハ、不法ニ此三者ヲ變更スルトキハ同時ニ國家ノ自斷權モ亦當然侵害ヲ受ク可キナリ

第二章 内亂ニ關スル罪

刑法第二百一十一條ニ曰ク「政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコ

内亂ニ關スル罪

トテ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ云々ト此法文ニ從フトキハ本條ハ政府顛覆邦土僭竊及朝憲紊亂ノ所爲ヲ罰スルモノニ非スシテ此等テ目的トシタル内亂ノ所爲ヲ罰スルニ止ルカ如シ然レトモ犯罪ノ目的ハ各人各異ノ性質ヲ帶フルモノニシテ目的ノ異同ヲ以テ法律上犯罪ノ區別ヲ爲スコト能ハサルハ既ニ汎論ニ於テ詳述シタル所ノ如クナルカ故ニ若シ法文ノ字句ニ拘泥シ目的ヲ以テ本罪ヲ構成スルノ要素ト解スルコトアテハ本條ヲシテ一ノ空文タラシムルニ至ル可シ何トナレハ本條ニ定メタル目的ノ外例ヘハ宗教ノ改革ヲ目的トシテ内亂ヲ起シ以テ朝憲紊亂邦土僭竊等ノ結果ヲ發生シタル所爲ノ如キハ遂ニ本條ニ依リ之ヲ罰スルコトヲ得サルニ至ル可ク仍ホ甚シキハ朝憲ヲ紊亂シ邦土ヲ僭竊シタル犯者ト雖モ其目的ノ私欲ニ出ツルコトヲ主張スルニ於テハ亦之ヲ如何トモスルコト能ハサルノ不都合ヲ來ス可ケレハナリ余カ前編ニ於テ皇室ニ對スル犯罪ヲ論スルニ際シ目的ノ國事ニアルト私怨ニ出ツルトヲ問ハスニ在位ノ天皇タルコトヲ知リツ、之ニ對シテ危害ヲ加フル者ハ即チ國家ノ主權者ヲ害スルモノニ外ナラストセルモ亦之ト同一理ナリ之ニ反シテ内亂ヲ起シ兵ヲ擧グル者アリトモ爲メニ

朝憲ヲ紊亂シ邦土ヲ僭竊スルコトナキトキハ國事犯トシテ之ヲ處分スルコトヲ得ス況ンヤ其目的ハ政府ヲ變亂スルニ在ルモ在位ノ天皇ノ外大臣其他ノ人ヲ謀殺スルカ如キハ毫末モ國憲ヲ紊亂モノニ非サルオヤ其性質上決シテ之ヲ國事犯罪トスルコトヲ得サルナリ(第二百二十三條)

然ラハ即チ我刑法ノ規定ハ如何ニシテ正當ノ解釋ヲ下ス可キ乎余ハ法文ノ字句ニ拘泥セス内亂ノ所爲ハ單ニ之ヲ犯罪ノ手段ト看做シ内亂ニ依リ政府ヲ顛覆シ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルノ所爲ヲ以テ我法律ノ國事犯ナリト解說シ以テ之ヲ分析批評セント欲スルナリ然レトモ若シ此案亂ノ所爲ニシテ實行セラレタル以上ハ同時ニ新憲法ヲ發生ス可キモノニシテ國家ハ既ニ罪トシテ之ヲ問フコトヲ得ス諺ニ所謂敗者ハ朝敵勝者ハ官軍タルハ國事犯ノ本性タリ故ニ刑法ハ唯此案亂ノ所爲ヲ遂クヘキ企圖ヲ罰スルニ過キサルヘシト雖モ其企圖タル直ニ朝憲ヲ紊亂ス可キ手段タル所爲ニ外ナラサルヲ以テ内亂ニ依リ朝憲ヲ紊亂スル所ノ所爲ノ未遂犯ハ即チ朝憲紊亂ノ結果ヲ發生ス可キ内亂ノ所爲ノ既遂犯ナリ而シテ現行刑法ハ全ク此既遂犯ノ點ヨリ犯罪タル所爲ヲ定メタルヲ以テ其法文

ヲ解釋スルニ當リテハ之ヲ政府顛覆邦土僭竊其他朝憲紊亂ノ結果ヲ生ス可キ内亂ノ罪トセサルヲ得ス

(主體) 國事犯ノ主體タルヲ得ヘキ者ハ我政府ニ服従スルノ義務アル者ニ限ルハ

既ニ前章ニ論述シタル皇室ニ對スル國事犯罪ノ場合ト異ナル所ナシ

(物體) 既ニ前章ニ於テ論述シタルカ如ク國事犯ノ物體タル可キモノハ國家ノ自

斷權ヲリト雖モ此自斷權タル國家ノ憲法ニ於テ始メテ形式ニ發露セラル可キ

ヲ以テ直接ニ被害ノ物體タル可キモノハ即チ朝憲ナリ刑法ノ正條ニハ政府ヲ

顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他ノ朝憲ヲ紊亂スル者ハ云々ト謂ヒ三種ノ物體ヲ

指示シタルニ似タレトモ政府ノ顛覆ハ當然朝憲紊亂ノ所爲中ニ包含セラル可

キヲ以テ必スシモ之ヲ區別スルヲ要セス

(犯意) 内亂罪ノ犯者タルニハ必ス先ツ既ニ現存セル事實ヲ知り且内亂タル所爲

ハ未來ニ朝憲紊亂ノ結果ヲ生ス可キコトヲ知りツ、之ヲ行フコトヲ要ス是レ

内亂罪ノ犯意ナリ若シ現存セル事實ヲ知ラサラン乎罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラ

サルモノニシテ當然無罪タル可ク若シ又過失ニ非サルモ朝憲紊亂ノ結果ヲ生

ス可キコトヲ知ラサラン乎是レ即チ此罪ニ要スル故意ナキナリ

(所爲) 内亂トハ戰爭一揆暴動等必スシモ英國法ノ如ク兵ヲ擧クルコトヲ要セス

凡テ國內ニ於ケル暴擧ヲ指示スルモノニシテ又其所謂暴擧ナルモノハ必ス有

形的即チ腕力上ノ暴擧タルヲ要シ無形的ノ暴擧ヲ包含スルコトナキモノ、如

シ尤モ此點ニ就テハ學者ノ間數多ノ議論アリ殆ト一決スルコトナキニ似タリ

オツベンホッフ氏ハ所謂暴擧ナル語中ニ無形ノ暴擧ヲモ包含スルモ單ニ強迫

ニ止マルモノハ暴擧ニ非スト云ヒベルネル氏ハ上ヨリスルノ國事犯即チ在朝

諸大臣及官吏等不法ノ達令命令ヲ發シテ憲法ヲ紊亂スルカ如キハ有形上ノ暴

力ヲ用非サルモ官權ノ濫用ニ出テタル國事犯者タルヲ免レスト云ヒ之ニ反シ

テシユワルツエー氏ヨーン氏シユツツエー氏ノ如キハ此論ヲ駁撃シ有形ノ暴

力ト單純ノ強迫トノ中間ニ位ス可キ無形ノ暴力ハ此犯罪ヲ構成スルニ足ラス

トセリ然レトモ我刑法ニ於テハ現ニ内亂ノ文字ヲ用非タルヲ以テ如何ニ巧妙

ノ理論ヲ以テスルモ無形ノ暴擧ヲ以テ直ニ之ヲ内亂ト解釋スルコト甚々難カ

ラム但無形ノ暴擧ヲ以テ此罪ヲ成立セサルモノトスルトキハ其未遂陰謀豫備

モ亦内亂罪ノ未遂陰謀等ヲ以テ罰スルコトヲ得サルニ至ル可キハ當然ナル可シ理論上厘毫ノ差ハ能ク千里ノ遠キニ及フモノト謂フ可キナリ又我刑法ハ必スシモ内亂ヲ起スヲ要セス内亂ノ爲メ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ内亂ヲ起シタル者ト同視スルハ稍刑ノ權衡ヲ得サルニ似タリ(第百二十二條)又第百二十三條ニ於テ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧グルニ至ラスト雖モ内亂ト同シク論ス可キ旨ヲ定メタリ然レトモ此罪タル本來國事犯ノ性質ヲ有ス可キモノニ非サルハ既ニ論述シタル所ニ依リ自ラ明了ナラム論者ニシテ若シ反對ノ意見ヲ持スル者アラハ余ハ一例ヲ擧ケテ試ニ問ハントス曰ク政府ヲ變亂スルニ足ル可キモノト思料シ一赤兒ヲ殺シタル者アラハ論者ハ仍ホ之ヲ内亂罪ノ既遂ト爲シ其未タ遂ケサル者モ第百二十四條ヲ適用シテ仍ホ之ヲ死刑ニ處スルハ論理ノ許ス所ナリトスル乎犯罪ノ物體ニシテ政府要路ノ長官タルト一赤兒タルト果シテ何ノ差アリトスル乎

(既遂未遂) 國事犯罪ハ未遂犯ノ時ニ於テ本刑ヲ科スルヲ以テ本則トス是レ國事

犯ノ既遂ハ犯者自ラ主權者タル可キヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得サルニ依ルト雖モ我刑法ハ前既ニ論述セルカ如ク朝憲紊亂ノ所爲ヲ以テ國事犯罪ノ既遂トスルコトナク其未遂犯即チ内亂ノ所爲ヲ以テ既遂ト定メタルヲ以テ此點ニ就テハ特ニ未遂犯ノ時ニ於テ本刑ヲ科スルノ必要ナシ然ルニ第百二十四條ニ於テ明カニ特例ヲ定メタル以上ハ内亂ノ所爲ノ未遂ノ時ニ於テ既ニ本刑ヲ科セサル可カラサルナリ

(豫備及陰謀) 國事犯ハ豫備陰謀ト雖モ之ヲ國事犯ノ豫備陰謀トシテ處分ス可キモノトスルハ殆ト各國刑法ノ通則ナリ然レトモ我刑法ノ所謂豫備陰謀ナルモノハ朝憲紊亂ノ所爲ノ豫備陰謀ニ非スシテ内亂タル所爲ノ豫備陰謀ナリ故ニ朝憲ヲ紊亂セントスルノ陰謀ヲ爲スモ内亂ヲ興スノ陰謀ヲ爲スニ非サレハ我刑法ノ間フ所ニ非ス(第百二十五條)而シテ其豫備ノ何物タルニ就テハ汎論ニ於テ既ニ之ヲ論シタレハ今茲ニ之ヲ畧ス可シト雖モ仍ホ茲ニ一言ノ注意ヲ要ス可キモノアリ即チ内亂罪ノ所謂陰謀ナルモノハ通常犯罪ノ如ク單ニ犯罪ヲ爲サンコトヲ決意シタルモノニ非ス二人以上共ニ合議決定シタルコトヲ指示ス

ルノ一事ナリ但内亂ノ罪ト雖モ一人ニシテ收テ之ヲ行フコト能ハサルモノニ非サル可シト雖モ一人ノミノ決意ニ係ル陰謀ノ如キハ輕微ニシテ之ヲ罪トスルニ足ラス故ニ我刑法ノ解釋上ニ於テハ佛律ノ精神ヲ推シ二人以上ノ合議決定ニ係ルモノヲ以テ始メテ陰謀ノ罪ヲ爲ス可キモノトスルヲ適當トス

(共犯) 内亂ノ罪ハ必スシモ多數アルヲ要ス可キモノニ非サルモ數人共犯ノ場合ニ係ルモノ甚タ數多ナル可キノミナラス往々數千數萬ノ共犯者アル可キモノナルヲ以テ我刑法第百二十一條ニ於テハ特ニ共犯ノ例ヲ掲ケ適宜ニ之ヲ處斷スルノ方法ヲ設ケタリ即チ國事犯ニ就テハ共犯ヲ四種ニ區別シ(第一)首魁(第二)首魁ヲ補佐シ群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者(第三)兵器ヲ資給シ其他諸般ノ職務ヲ爲シタル者(第四)教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者トセリ然レトモ此區別タル其間素ヨリ學理上ノ差異ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス立法官ハ恐クハ僅カニ一二ノ實例ヲ引用シテ實際上適宜ノ處分ヲ爲サノコトヲ企テタルモノナラム故ニ法文ノ字句自ラ有形的ニシテ記事體タルヲ免レサレハ此共犯例ヲ以テ千百ノ場合ニ適用セントスルニハ法官極メテ其困難ヲ覺ユルモノアラントス何トナレハ僅々數人ニテ行ヒタル内亂罪就中其陰謀罪ノ如キニ就テモ法官ハ必ス其中ニ就キ首魁及補佐者タル者ヲ定メサレハ此刑ヲ適用スルコトヲ得サレハナリ但教唆者ノ處分ニ就テハ刑法總則ヲ適用シ第一首魁ノ教唆者ハ首魁ト同シク論シ第二以下各其罪ニ依リ其教唆者ヲ以テ之ヲ論スレハ即チ足レリトス故ニ我刑法ハ特ニ「首魁及教唆者」云々ト明記スルノ必要ナシト雖モ立法官ハ特ニ首魁ヲ教唆スルニ止マラス首魁其他一般ノ犯者ヲ總括シテ教唆スル者アル可キ場合ヲ豫定シ第一項中特ニ首魁及教唆者ト明記セルモノナラム

(數罪俱發) 内亂タル一所爲ハ數多ノ所爲ノ集合ニ成ル可キ場合甚タ多キハ内亂罪ノ常態ナリ而シテ若シ其各分子ナル所爲ニシテ同時ニ他ノ犯罪ヲ構成スルトキハ該犯罪ト内亂罪トハ數罪俱發ノ例ニ照シテ之ヲ處分ス可キ乎將タ單ニ内亂罪ノ一罪ヲ以テ之ヲ處分ス可キ乎之ヲ要スルニ凡ソ縱令各分子タル所爲ハ其所爲自身ニ於テ一罪ヲ爲スモ法律ニ於テ苟モ之ヲ一罪一所爲トスル以上ハ數罪俱發ニ非ズトスルハ法理ノ通則ナリ例ヘハ強盜罪ハ盜罪ノ外必ス暴

行罪若クハ強迫罪ノ成立ス可キモノナルモ法律ハ決シテ之ヲ數罪俱發トスル
 コトナキカ如シ然レトモ如何ナル所爲カ果シテ内亂罪ナル所爲中ニ包含セラ
 ル、ヤ否ヲ定ムルハ各事件ニ就キ通常一樣ノ意義ニ於テ之ヲ判別セサル可カ
 ラス之ニ反シテ若シ或所爲ニシテ苟モ内亂タル所爲ニ包含ス可カラサルモノ
 ナラン乎是レ數罪ナリ之ヲ數罪俱發ノ例ニ照サ、ルヲ得ス例ハ官軍ノ攻畧
 ナ防シノ手段トシテ民家ヲ燒拂ヒ又ハ官軍ヲ進撃シテ之ヲ殺スカ如キハ内亂
 ノ所爲ニ包含セラル可キヲ以テ別ニ放火罪若クハ殺人罪ヲ構成スルコト勿ル
 可キモ若シ之ニ反シ軍中ニ於テ味方ヲ殺害シ又ハ攻守ニ必要ナラサル一二ノ
 民家ニ放火スルカ如キハ内亂罪ノ外併セテ右ノ常事犯トセサルヲ得サル可シ
 刑法第二百二十八條ニ内亂ニ乘シテ人ノ身體財產ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル
 重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シテ重キニ從テ處斷スト云ヘルハ即チ
 此意ナリ唯法文カ内亂ノ目的ニ關セサル罪云々ト謂ヒ目的ノ内亂ニ關スルト
 否トチ以テ右ノ區別ヲ爲サント企テタルハ素ヨリ其當ヲ得スト雖モ其意ハ蓋
 シ内亂ニ包含セサル所爲ヲ指示スルニ外ナラサル可シ又同上ノ理由ヲ推及ス

ルトキハ豫備陰謀ニシテ他ノ刑名ニ觸ル、トキハ内亂本罪ノ場合ト異ニシテ
 常ニ之ヲ數罪俱發ニ問ハサル可カラサルコトヲ發見ス可シ何トナレハ豫備陰
 謀ナルモノハ既ニ汎論ニ於テ詳述シタル如ク毫モ犯罪タル所爲ニ關係ナキモ
 ノタルヲ以テ内亂罪ノ場合ニ於テモ亦決シテ之ヲ内亂罪タル所爲ノ範圍ニ置
 クコトヲ得サレハナリ例ハ内亂ヲ起サント欲スルモ資金ナキカ爲メニ民家
 ニ侵入シテ強竊盜ヲ爲シタル者ノ如キハ之ヲ通常ノ強竊盜ニ問ハサルヲ得ス
 其理ハ猶ホ人ヲ謀殺セント欲シテ兇器ヲ竊取シタル者ハ之ヲ竊盜ノ罪ニ問ヒ
 謀殺ノ豫備トスルコトヲ得サルニ異ナラス故ニ單ニ内亂ノ豫備又ハ陰謀トシ
 テ其罪ヲ問フ可キ場合ハ其豫備陰謀ノ所爲ニシテ他ノ犯罪ヲ構成セサル場合
 ニ限ル可シ

(刑罰) 首魁及教唆者ハ死刑ニ處シ群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル
 者ハ情狀ノ輕重ニ從ヒ無期流刑又ハ有期流刑ニ處シ兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸
 般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄又ハ輕禁獄ニ處シ教唆ニ乘シテ附和隨行シ又
 ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其輕罪

ノ刑ニ處スル者ト雖モ仍ホ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス然レトモ豫備ノ所
爲ニ止マル者ハ一等ヲ減シ陰謀ニ止マル者ハ二等ヲ減シ未タ其事ヲ行ハサル
前ニ於テ官ニ自首スル者ハ本刑ヲ免シ單ニ六月以上三年以下ノ監視ニ附ス(第
百二十一條乃至第百二十八條及第百三十五條)

外患ニ關スル罪

第三章 外患ニ關スル罪

現行刑法ニ於テハ外患ニ關スル罪ハ凡テ交戰中ニ非サレハ之ヲ罪トシ論スルコ
トナシ論者往々交戰中ニ非サルモ尙ホ外患ニ關スル罪ヲ構成スルコトヲ得ヘキ
モノトスル者アレトモ是レ未タ現行刑法ノ規定スル所ヲ熟慮セサルノ誤ニ出ツ
抑モ交戰中トハ實際ノ戰爭中ヲ云フノミニ非スシテ或外國ヲ以テ敵國ト公認シ
タルノ時ヲ指ス故ニ刑法中必スシモ交戰中ノ文字ヲ用ササルモ或ハ敵國ニ交付
通知スルト云ヒ或ハ敵兵ニ附屬スト云フモ共ニ之ヲ交戰中ト看做サ、ルヲ得サ
ルナリ但第百三十三條ノ場合ハ主トシテ交戰中ニ非サル場合ヲ規定シタルモノ
ニ係ルト雖モ此條ノ罪タル當サニ之ヲ外國ニ對スル犯罪中ニ入ル可キモノニシ
テ外患ニ關スル犯罪中ニ挿入ス可キモノニ非ス

(主體) 日本人民及日本在留ノ外國人ニ非サレハ外患ニ關スル罪ヲ犯スコトヲ得
ス但其軍人軍屬ニ係ル場合ハ陸海軍刑法ニ依テ處斷シ第百三十二條ノ場合ニ
於テハ陸海軍ノ依託ヲ受ケ物品ヲ供給シ及工作ヲ爲ス所ノ通常人ニ限リテ此
罪ヲ犯スコトヲ得

(物體) 被害ノ物體ハ外國ニ對スル日本ノ主權ナリ故ニ外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開
キタル罪(第百三十三條)ノ如キハ毫末モ日本ノ主權ヲ害スルコトナク其直接ノ
被害者ハ外國ノ主權者タルヲ以テ外國ニ對スル罪ニシテ外患ニ關スル罪ニ非
ス

(所爲及刑罰) 外患ニ關スル罪タル所爲ハ甚タ數多ニシテ一様ナラスト雖モ現行
刑法ニ於テハ左ノ四種ノ所爲ヲ認メ各之ヲ別罪トセリ

(第一) 背叛ノ罪 ハ外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ニ與セサルモ同盟國
ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬スルノ所爲ナリ死刑ヲ以テ其罪ヲ
論ス(第百二十九條)

(第二) 敵國ニ助勢スルノ罪 ハ交戰中ニ際シ敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラ

シメ若シハ本國及同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物品ヲ敵兵ニ交付スルノ所爲ヲ謂フ罰前項ニ同シ(第三百三十條)

(第三) 秘密洩洩ノ罪 ハ本國及同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏洩シ若シハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知スルノ所爲ナリ敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ又ハ藏匿スルカ如キモ亦此罪ニ準シ共ニ無期流刑ニ處ス(第三百三十一條)

(第四) 軍備ノ欲乏ヲ致スノ罪 ハ陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及工作ヲ爲ス者交戦ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其賄遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ且軍備ノ欲乏ヲ致シタル所爲ナリ此犯者ハ有期徒刑ニ處シ仍ホ輕罪ノ刑ニ處スル場合ニ於テハ前三項ノ罪ト等シク之ヲ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス(第三百三十二條及第三百三十五條)

外國ニ對スル罪

第二款 外國ニ對スル罪

何レノ國ニ在ルテ間ハス苟モ帝國臣民又ハ帝國在留ノ外國人ニシテ外國ノ君主ニ危害ヲ加ヘ若シハ外國ノ邦土ヲ僭竊シ其他國憲ヲ紊亂セントスルノ暴舉ヲ爲

シ又ハ外國ノ君主若シハ本邦在留ノ外國公使ニ對シ不敬ノ所爲アルモノ、如キハ德義上大ニ咎ム可キナキニ非スト雖モ帝國ニ對スル國事犯トシテ帝國ノ刑法ヲ以テ之ヲ處斷スルコトヲ得ス何トナレハ我帝國臣民及在留ノ外國人ハ唯日本ノ主權ニ服從スルノ義務アル可キモ外國在留中ノ外、外國ノ主權ニ服從スルノ義務ナキモノナレハナリ英國前宰相ビールコンスフィールド侯カ其著ハス所ノ一小説ニ於テ語ヲ親王リ、プットノ口ニ借り己ノ當ニ奉ス可キ君主ニ非サル者ニ對シテ國事犯トハ何事ソヤト云ヘルハ眞ニ能ク此意ヲ得タルモノト謂フ可シ然レトモ特別ノ條約又ハ外國刑法ノ規定ニ依リ外國ニ於テモ亦相互ニ此種ノ犯罪ヲ處刑センコトヲ保證シタルトキハ外國政府ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ斷スルハ妨ナシ是レ和親國ニ對スルノ情誼ニ出ツルナリ
現行刑法ニ於テ外國ニ對スル罪ト認ム可キモノニアリ一ハ外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開ク罪(第三百三十三條)ニシテ一ハ局外中立ノ布告ヲ破ルノ罪(第三百三十四條)トス(主體) ハ一私人タル日本國民及在留外國人ニシテ日本政府ハ此犯罪ノ主體タルコトヲ得サルハ勿論ナリ

(物體) 此種ノ犯罪ニ於テハ被害ノ物體ハ外國ノ主權者ナリ然レトモ苟モ我國法
 ナ以テ此罪ヲ定メタル以上ハ其破ル所ノ法律ハ日本ノ法律ニ外ナラスト雖モ
 直接ニ犯罪ノ物體タルモノハ外國ノ政府ナリ但シ此罪ヲ以テ佛獨等ノ刑法
 ニ於ケルカ如ク外國ノ政府ニ通款シ又ハ外國ニ對シテ敵對ノ所爲ヲ行ヒ本國
 ナシテ外國ト戰端ヲ開カシムルノ所爲ヲラシメハ其犯罪ノ物體タル可キモノ
 ハ本國政府ナル可キモ我刑法ノ正條ハ此意ヲ以テ之ヲ解釋スルコトヲ得サル
 可シ

(所爲) 戰端トハ如何ナル所爲ヲ指示スル乎ハ唯之ヲ普通ノ意義ニ解スルノ外ナ
 シ然レトモ本來此罪ハ外國ノ主權ニ對スル所爲タルヲ以テ一私人ヨリ外國ノ
 政府ニ對シテ開キタル戰爭ヲラサル可カラズ國ト國トノ戰爭又ハ日本ノ一私
 人ト外國ノ一私人トノ間ニ於ケル戰爭ノ如キハ犯者ノ多少ヲ問ハス決シテ此
 罪ヲ構成ス可キモノニ非ス局外中立ヲ破ルノ罪ハ其所爲ノ一様ナラス外國ト外
 國ト交戰中本國ニ於テ時々布告シタル法律ニ依リ始メテ其所爲ノ如何ヲ知ル
 コトヲ得ヘシ

(刑罰) 私カニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處シ其豫備ニ止マル者ハ一等又ハ
 二等ヲ減シ局外中立ノ布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處
 シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其輕罪ノ刑ニ處スル者ト雖モ尙ホ六月以
 上二年以下ノ監視ニ附ス(第三百三十三條乃至第三百三十五條)

第三款 官權ノ執行ニ抗スル罪

第一章 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

現行法ニ於テハ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪ヲ分テ二種トシ(第一)抗命ノ罪第
 二)官吏侮辱ノ罪トス左ニ之ヲ分論セム

第一節 抗命ノ罪

抗命ノ罪トハ官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執
 行スルニ當リ暴行強迫ヲ以テ官吏ニ抗拒シ(第三百三十九條)又ハ其官吏ノ爲ス可カ
 ラサル事件ヲ行ハシムルノ所爲(同條第二項)ヲ云フ本罪構成ノ元素ニ就キ注目ス
 可キ要點左ノ如シ

(主體) 何人ト雖モ此犯罪ニ就テハ其主體タルコトヲ得ヘシ故ニ此罪ヲ犯シ得ヘ

官權ノ執行ニ抗スル罪
 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

抗命ノ罪

キ者ハ必スシモ法律規則又ハ命令ノ執行ヲ受クル所ノ本人タルヲ要セス三者ト雖モ尙ホ此罪ヲ犯スコトヲ得

(物體) 被害ノ物體ハ國家ノ執行權ナルヲ以テ官權抗拒ノ所爲ハ正當ナル職務上法律命令執行中ナル正當ノ官吏ニ對スルモノタラサル可カラス故ニ職務上執行ノ權ナキ官吏ニ係ルカ又ハ官吏ノ執行スル所法律命令ニ反スルカ又ハ抗拒ニシテ法律命令ノ執行中ニ非スシテ其前後ナル場合ニ在テハ毫末モ國家ルノ行權ヲ害スルコトナキヲ以テ此犯罪ヲ構成スルコト勿ル可シ然レトモ官吏ノ行フ所其職權ヲ超ヘ又ハ其處分ノ不正ナル場合ニ於テハ學者ノ間多少ノ議論アリト雖モ其所爲苟モ官民共ニ了知ス可キ法律規則ニ反シタルトキハ素ヨ執之ヲ此罪ニ問フコトヲ得可シ是等ノ議論ニ就テハ余ハ既ニ汎論ニ於テ之ヲ詳述シ事ノ正否ニシテ法律ノ問題ニ屬ズルトキハ人民ハ之ヲ拒ムノ權アル可ク事實ノ當否ノ問題ニ屬スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノト論定セリ但官吏ハ之ヲ法律ニ適スルト思考シ人民ハ之ヲ不法ノ處分ト思惟スルトキハ官吏ハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ執行シ人民ハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ抗拒ス可シト雖

モ爭議判定ノ後果シテ適法ノ處分タルニ於テハ人民ハ此罪ヲ免ル、コトヲ得ス又若シ之ニ反シ不法ノ處分タルニ於テハ人民ハ其罪ヲ免レ官吏ハ不法ノ處分ヲ行ヒタルノ責任ヲ免ル、コトヲ得サルナリ

(手段) 抗命ノ罪ハ必ズ暴行強迫ノ手段ニ出ツルコトヲ要ス而シテ此暴行強迫ハ必ズ官吏ノ一身ニ對シテ加ヘタルモノタル可シ故ニ逮捕官吏ノ追撃シ來ルヲ望見シテ逃走スルカ如キハ其命令ニ抗スルモノナルモ素ヨリ此罪ヲ構成スルコト勿ル可シ

(所爲) 抗拒トハ官吏ノ命令處分ニ反對シテ之ニ服從セサルノ所爲ヲ云フ故ニ縱令官吏ニ對シ暴行強迫ヲ加フルモ之ニ抗拒スルコトナク其命令處分ハ謹ンテ之ニ服從シタル場合ニ於テハ唯常人ニ對スル場合ト等シク單ニ暴行強迫ノ罪アルニ過キサル可シ但數多ノ場合ニ於テハ暴行強迫ノ所爲ハ同時ニ抗拒ノ所爲タル可シ現行法ハ又抗拒ノ所爲ノ外第三百三十九條第二項ニ一種ノ所爲ヲ加ヘ暴行強迫ヲ以テ官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシムルノ所爲ヲ以テ抗拒ノ所爲ト同視セリ法文甚タ曖昧ニシテ大ニ明晰ヲ缺クモノアリト雖モ此項ノ

刑法各論 國家ニ對スル罪 官權ノ執行ニ抗スル罪 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪 抗命ノ罪 二四五

適用ハ唯暴行強迫ニシテ未タ抗拒ス可カラサル強制ト云フ可キノ甚シキニ至
 ラス又其官吏ノ行ヒタル事件ニシテ他ノ犯罪タラサルトキニ限ル可シ何トナ
 レハ抗拒ス可カラサル強制ニ由リ官吏ニ犯罪ヲ爲サシメタル者ハ自ラ其罪ヲ
 犯シタル者ニシテ其罪ヲ以テ之ヲ論ス可ケレハナリ論者或ハ此說ニ對シ異說
 ナ唱ヘ此說ニ從フドキハ本條ノ罪ト官吏ヲシテ或事ヲ行ハシメタル犯罪トノ
 刑罰其權衡ヲ失スルニ至ル可シト云フ者アル可シト雖モ官吏ヲシテ或事ヲ行
 ハシメタル犯罪輕小ナレハ輕小ノ刑ヲ以テ之ヲ罰ス可シ重大ナレハ重大ノ刑
 ナリ故ニ本條ハ抗拒シ得ヘキ暴行強迫ニ依リ官吏ヲシテ或罪トナラサル事件
 ナ行ハシメタルノ所爲トスルヲ適當トス

(刑罰) 抗命ノ罪ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金
 ナ附加ス其官吏ヲ毆傷スルニ至リタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加
 ヘ特別ノ罪トシテ之ヲ處斷ス(第三百三十九條及第四百十條)

官吏侮辱
ノ罪

第一節 官吏侮辱ノ罪

官吏侮辱ノ罪ハ官吏タルノ名譽ヲ毀損スル罪ナリ現行刑法ノ規定ニ從ヒ之ヲ解
 說スレハ官吏ノ職務ニ對シ刊行ノ文書圖書若クハ公然ノ演說又ハ其目前ニ於テ
 形容若クハ言語ヲ以テ侮辱スルノ所爲ナリトス(第四百四十一條)

(物體) 官吏侮辱罪ノ物體タル可キモノハ官吏ノ官吏タル資格ニ於ケルノ名譽ニ
 シテ公平正直ナルコト官吏タルノ伎倆能力アルコト等ヲ指ス故ニ官吏タルノ
 名譽ト常人ノ名譽トハ自ラ相異ナル所アル可シ例ヘハ不公平若クハ不正ノ處
 分ヲ爲シタリトノ言語文書ハ官吏ニ對スル侮辱タル可キモ常人ニ對シテ誹毀
 若クハ罵詈ノ罪タルコト甚タ僅少ナラン法文ニ其職務ニ對シ云々ト明言スル
 ハ官吏ノ官吏タル資格ニ於ケル名譽ヲ指示セルモノニ外ナラサル可シ然ラス
 ンハ即チ其意ノ何レニ在ルチ知ルコト能ハサルノ空文タルヲ免レサレハナリ
 然レトモ官吏モ亦通常一樣ノ常人タルニ過キサルヲ以テ素ヨリ官吏タルノ名
 譽ニ併セテ常人タルノ名譽ヲ有スト雖モ其常人タルノ名譽ノミヲ毀損シタレ
 ハトテ必スシモ單ニ之ヲ常人ニ對スルノ罪トスルコトヲ得ス即チ官吏タルコ
 トヲ知リツ、其職務ノ執行中ニ於テ常人タルノ名譽ヲ毀損シタルトキハ之ヲ

刑法各論

國家ニ對スル罪

官權ノ執行ニ抗スル罪

官吏ノ職務ヲ行
フチ妨害スル罪

官吏侮辱ノ罪 二四七

官吏侮辱ノ罪トセサルヲ得ス何トナレハ此場合ニ於テハ常人タルノ資格ト官吏タルノ資格トハ之ヲ一身ニ集合シ同時ニ之ヲ併有スルモノナレハ常人タルノ名譽ヲ害スル者ハ即チ又兼テ官吏タルノ名譽ヲ害ス可クレハナリ

(手段) 官吏ノ目前ニ於テハ形容若クハ言語ヲ以テスルコトヲ要シ其目前ニ非サル者ハ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演説ヲ以テスルコトヲ要ス故ニ印行セサル文書又ハ偶像演劇ヲ作為シテ之ヲ行フモ官吏侮辱ノ罪ヲ構成スルコトナシ

(所爲) 侮辱ノ所爲トハ名譽ヲ毀損ス可キ言語文書等ヲ公ケニスルヲ云フ語ヲ換ヘテ之ヲ云ハ、侮辱ヲ受クル官吏以外ノ三者ニ之ヲ知ラシメ又ハ三者ノ知り得ヘキ場所ニ於テ之ヲ公表スルヲ云フナリ故ニ侮辱即チ加害ノ所爲ハ公表スルノ所爲ニシテ名譽ヲ毀損スヘキ言語ヲ發シ又ハ文書ヲ作為スル等ノ所爲ニ非ス例ヘハ公示ノ書狀ヲ用ヰス密封シタル文書ヲ以テ官吏ノ私邸ニ送附スルカ如キハ素ヨリ此罪ヲ構成スルコトナキカ如シ但縱令之ヲ第三者ニ對シテ公表セサルモ官吏ノ目前ニ於テスルモノハ仍ホ官吏侮辱罪ヲ構成ス可シ是レ常人ニ對スル誹毀ト其手段ニ於テ異ナル所ナリ又此罪ハ誹毀罪ト異ニシテ惡事

醜行等事實ヲ摘發スルコトヲ要セサルヲ以テ事實ノ有無ヲ問フノ必要ナシ例ヘハ痴漢愚物汚吏等ノ語ヲ以テ官吏ヲ罵詈シ毫モ其官吏ノ痴漢愚物若クハ汚吏タル事實ヲ公ニセサルモ仍ホ官吏侮辱罪ヲ構成スルカ如シ故ニ侮辱罪タル可キ所爲中ニ誹毀罪ノ所爲ヲ包含スルコトヲ得ヘシト雖モ誹毀罪ノ所爲中ニハ必スシモ侮辱罪タル可キ所爲ヲ包含スルモノニ非ス夫ノ新聞紙條例ニ於テハ誹毀ノ事實ヲ證明シタルトキハ誹毀罪ヲ免ス可キコトヲ規定シ官吏侮辱罪中官吏ヲ誹毀スル罪ニ就テハ事實ノ證明ヲ許スモ一切ノ官吏侮辱罪ニ就キ之ヲ許サ、ルモ亦此理由アルニ因ルナリ若シ苟モ官吏侮辱罪ヲラシニハ單ニ罵詈ニ止マルモ亦其事實ヲ證明シ得ヘキモノトセン乎單ニ某大臣ハ愚物ナリトノ事ヲ記載シタルモノモ裁判所ニ於テ新ナル事實ヲ提供シ公然其大臣ノ愚物タルコトヲ證明セサル可カラサルノ奇觀ヲ呈ス可キナリ仍ホ前編誹毀罪ヲ論シタル所ト比較セハ二者ノ區別ヲ明知スルニ足ラン

(刑罰) 官吏侮辱ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

刑法各論 國家ニ對スル罪 官權ノ執行ニ抗スル罪 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪 官吏侮辱ノ罪 二四九

第二章 囚徒逃走ノ罪

既決ノ囚徒ニ對シテハ法律ハ決シテ刑ノ執行ヲ受クルノ義務ヲ負ハシムルモノニ非ス抑モ刑罰ハ法律終局ノ制裁ナリ國家ハ宜シク其實力ヲ以テ刑罰ヲ執行ス可シ若シ法律ノ制裁トシテ犯人ニ負ハシムルニ法律上ノ義務ヲ以テスルコトアラハ法律ノ制裁ハ果シテ何ノ日ニ到リテ其局ヲ結フ可キヤ既決囚逃走ノ罪ヲ問フカ如キモ亦法律ノ制裁ニ法律上ノ義務ヲ以テスルノ嫌ナキニ非サルナリ刑罰執行ノ任ニ當ル者ハ宜シク獄舎ノ外圍ヲ堅固ニシ規律ヲ嚴ニシ實力ヲ以テ刑罰ノ執行ヲ爲サ、ル可カラズ然ラスノハ囚徒モ亦實力ヲ以テ逃走ス可キハ當然ナリ若シ獄舎ニシテ外圍ヲ設ケス看守ヲ置カス法律ヲ以テ凡テ刑ニ處セラレタル者ニ對シ自ラ某所ニ其身ヲ置クコトヲ命シ若シ此命ヲ奉セス逃走スル者アルトキハ某ノ刑罰ニ處ス可シト云ヒ再ヒ其刑罰ニ服セサルモノアルトキハ更ニ之ヲ某ノ刑罰ニ處ス可キコトヲ命スルモ實力ヲ以テ之ヲ實行スルノ日ナクシテハ法律ハ唯命令ノミニ止マリ遂ニ其制裁ノ實行ヲ見ルコトナキニ至ル可シ故ニ理論上ヨリスルトキハ囚徒逃走ニ關スル罪ハ逃走ノ囚徒本人ノ外他人ニシテ囚徒ヲ逃

走セシメ若シハ其逃走ヲ幫助シ又ハ囚徒本人ナラハ獄舎ヲ破壊シ暴行強迫ヲ爲シテ逃走シタル者等凡ソ官權ノ執行ニ抗拒スル者ヲ罰スルヲ以テ其本旨トセサル可カラズ是レ獨佛法律カ囚徒逃走ノ罪ヲ認メス唯之ヲ獄則違反トスル所以ナリ但我刑法ニ於テハ囚徒逃走ノ罪ヲ主トシテ其成規ヲ定メタルニ拘ハラス從犯即チ囚徒ノ逃走ヲ幫助シタル者ヲ罰スルニ却テ囚徒逃走罪ヨリ重キ刑ヲ以テスルニ至リテハ又以テ立法官ノ良心ヲ知ルニ足レリ(第四百四十二條及第四百四十六條第四百四十七條參照)

(主體) 既決未決ノ囚徒即チ法律ノ命スル所ニ從ヒ司法處分ニ依リ獄舎ニ在ル者ニ非サレハ此罪ヲ犯スコトヲ得ス故ニ一時警察其他ノ官署ニ留置セラレタル者又ハ行政處分ニ出テタル懲罰(例ヘハ近年ニ至ルマテ特別法ヲ以テ特ニ行政處分ニ委ネラレタル賭博犯ノ懲罰)ニ處セラレタル者ノ如キハ囚徒逃走ノ罪ヲ以テ之ヲ論スルコトヲ得ス此犯罪ノ主體タル可キ者ハ斯ク特別ノ資格ヲ要スルカ故ニ既決囚徒ノ逃走シタル場合ニ於テハ初犯ノ刑罰ニ對シテハ常ニ再犯ヲ以テ論スルコトナキ旨ヲ明定セリ但未決ノ囚徒ニ係ル場合ハ原犯罪ヲ決ス

ル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス(第四百十三條及第四百十四條)囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示スル罪(第四百十六條)及囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行強迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケルノ罪(第四百十七條)ニ就テハ何人ト雖モ其主體タルコトヲ得ヘシ暴行ノ手段ニ依ラズ單ニ囚徒ヲ逃走セシメタル罪(第四百十八條)及懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル罪(第四百五十條)ニ就テハ看守又ハ護送者ノ外其主體タルコトヲ得ス又通謀逃走ノ罪(第四百十五條)ニ就テハ囚徒三人以上タルコトヲ要ス

(手段) 此犯罪ノ手段ニ就テハ特ニ論ス可キモノナシト雖モ獄舎器具ヲ破壊シ又ハ暴行強迫ノ手段ニ出テタルトキハ特ニ其罪ヲ重シトシ之ヲ特別ノ罪ト爲ス所謂破獄罪ナルモノ即チ是レナリ(第四百四十二條第二項及第四百四十七條)

(物體) 此犯罪ノ物體ハ國家ノ刑罰執行權ナルヲ以テ囚徒逃走ノ場合ニ於テハ囚徒自ラ此權ヲ侵害シ囚徒劫奪又ハ逃走幫助ノ場合ニ於テハ何人ト雖モ其犯者タル者此權利ヲ侵害ス

(所爲) 國家ノ刑罰執行權ニ抗拒スルノ所爲ハ即チ此犯罪タル所爲ヲ構成スルモノ

罪人藏匿ノ罪

ノニシテ逃走又ハ囚徒劫奪等ノ諸所爲ヲ指ス而シテ前既ニ論述スルカ如ク獄舎器具ヲ破壊セス又ハ官吏ニ對シ暴行強迫ヲ用ヰサル單純ナル既決囚逃走ノ罪ノ如キハ別ニ積極的ナル抗拒ノ所爲ナキヲ以テ單ニ國家ノ權ニ服從セサルノ所爲即チ消極的ノ抗拒アルモノトスルノ外勿ル可シ

(刑罰) 逃走ニ關スル犯罪ニ就テハ重罪ノ囚徒ヲ劫奪スルノ罪ヲ以テ最モ重シト爲シ之ヲ輕懲役ニ處シ犯狀ノ輕重ニ從ヒ漸次其刑ヲ減シ純然タル逃走罪ニ至リテハ之ヲ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ其輕罪ニ係ルモノト雖モ尙ホ未遂犯罪ヲ處罰ス但懈怠ニ出テタル犯罪ハ單ニ之ヲ財產刑ニ止メ且其未遂犯罪ヲ罰スルコトナシ(第四百四十二條乃至第四百五十條)

第二章 罪人藏匿ノ罪

本章ニ於テハ罪人タルコトヲ知テ之ヲ藏匿スルノ罪及他人ノ罪ヲ免カレシムル爲メ其罪證ヲ隱蔽スル罪(第四百五十一條)及第四百五十二條ヲ論述セン

(主體) 此犯罪ハ藏匿若クハ隱蔽セントスル罪人ノ親屬ニ係ル者ノ外何人ト雖モ其主體タルコトヲ得ヘシ然レトモ此罪ノ如キ國家ノ權力ヲ害シ公益ニ重大ノ

關係ヲ有スルモノニ在テハ親屬相愛ノ情誼ニ過キサル道徳上ノ理由ヲ以テ特
 ニ親屬ニ係ル場合ノ罪ヲ論セサルハ理論ニ適シタルモノト云フ可カラス又是
 等ノ犯罪ハ特別ナル一種ノ犯罪ニシテ他ノ犯罪ノ從犯タル可キモノニ非ス事
 後ニ從犯ナキ所以ハ既ニ汎論ニ於テ之ヲ詳述セリ但何人ト雖モ罪人其罪ヲ犯
 スノ前ニ於テ豫メ之ヲ藏匿シ又ハ罪證タル可キ物件ヲ隠蔽センコトヲ約シタ
 ルトキハ即チ純然タル從犯ノ所爲タルヲ以テ犯人ノ親屬ニ係ル場合ト雖モ從
 犯トシテ尙ホ其罪ヲ論スルコトヲ得ルニ似タリ(第百五十三條)

(物體) 被害ノ物體ハ國家ノ犯罪搜查ノ權ナルヲ以テ官署ノ逮捕シ又ハ搜查セン
 トスル所ノ者即チ犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ被監視者又ハ罪證ト爲ル可キ物
 件ヲ以テ此犯罪タル所爲ニ直接ナル物體ナリトス故ニ第百五十一條ノ所謂犯
 罪人ナルモノハ眞ノ犯罪人タルト否トナ問ハス尙モ官ノ搜查ニ係ル者ヲ總稱
 スルヲ以テ立法ノ精神トスレトモ法文中特ニ犯罪人ト明言シタル以上ハ法律
 ニ於テ之ヲ犯罪ト認ムル者ニ非サレハ此犯罪ノ物體タルコトヲ得サル可シ然
 レトモ此罪ヲ處斷スルニハ必スシモ本罪ノ物體タル犯罪人ニシテ確定ノ裁判

ヲ經タル後タルコトヲ要セス判官ハ犯人藏匿ノ罪ヲ判定スルノ當時ニ於テ單
 ニ此罪ヲ處斷スルノ目的ニ於テノミ藏匿セラレタル犯罪人ノ果シテ法律上ノ
 犯罪者タルヤ否ヲ定メ以テ其裁判ノ言渡ヲ爲ス可キモノトス而シテ此場合ニ
 於テハ一方ノ裁判ニ於テハ之ヲ犯罪人ト認メ一方ノ裁判ニ於テハ之ヲ犯罪人
 ニ非スト認メ二個ノ裁判相牴觸スルカ如キノ外觀アル可キモ裁判ハ素ヨリ各
 人ニ就キ其言渡ヲ爲ス可キモノナルヲ以テ敢テ顧慮スルニ足ラサル可シ其罪
 證ト爲ル可キ物件タルヤ否ニ就テモ亦同シ蓋シ斯ノ如キ裁判上ノ不權衡ハ特
 典其他異常ノ手續ニ依ルノ外他ニ之ヲ醫スルノ方法ナキモノト覺悟セサルヲ
 得ス但犯罪人ヲ藏匿シ又ハ罪證ト爲ル可キ物件ヲ隠蔽シ爲メニ其犯罪人ナシ
 テ刑罰ヲ免レシメ又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケシメタルトキハ眞ニ犯人藏匿犯罪曲
 庇ノ目的ヲ達シタルモノナルカ故ニ此犯者ニ對シテ言渡サレタル有罪ノ裁判
 ナ爲シ藏匿又ハ曲庇ノ目的タリシ犯人ニ對シテ無罪ノ裁判アル可キハ通常ノ
 事態ニシテ決シテ之ヲ裁判ノ牴觸ト云フコトヲ得サルナリ

(犯意) 法文ニ明言セルカ如ク犯人藏匿ノ罪ヲ構成スルニハ犯者ニ於テ犯罪人又

ハ逃走ノ囚徒及監視ニ付セラレタル者タルヲ知ルコトヲ要ス然ルニ某々ノ人ハ犯人ナルヤ否ヲ知ルト知ラサルトハ即チ事實ヲ知ルト知ラサルトニ外ナラスシテ特ニ明文ヲ掲クルニ及ハス總則第七十七條第二項ヲ適用シテ足ラサル所ナキヲ以テ或ハ該法文ハ此犯罪ニ就テハ更ニ一步ヲ進メ法律ヲ知ラサル場合ニモ亦之ヲ無罪トスルノ意ナルカヲ信セシム例ハ某々ノ人ハ斯ク々々ノ所業ヲ爲シタル者タルコトヲ知リ之ヲ藏匿スルモ其所業ハ法律ニ觸ル、モノニ非スト信シタル場合ノ如キ是ナリ然レトモ法律ノ不識ハ犯罪ノ責任ヲ免ル、ノ原因ニ非サルハ刑法一般ニ適用ス可キ原則ニシテ苟モ法律ニシテ効力アル以上ハ犯人ヲ知ラサルノ故ヲ以テ其効力ヲ空フセシムルコトヲ得サル可シ蓋シ本條ノ犯罪ハ之ヲ犯人藏匿ノ所爲ト云ハンヨリ其本性ニ至リテハ寧ロ之ヲ犯人ヲ藏匿シテ其刑罰ヲ免レシムルノ所爲ト云フ可キモノタルヲ以テ法文ノ所謂犯罪人又ハ逃走ノ囚徒タルコトヲ知ルトハ犯人又ハ逃走ノ囚徒ヲシテ刑罰ヲ免レシムルノ故意ヲ要スト云ヘル意義ニ外ナラスト解釋シ難キニ掲ケタル一例ノ如キモ亦此故意即チ刑罰ヲ免レシムルノ故意ナキモノトセハ論

理或ハ其當ヲ得ルニ近カラン又罪證隠蔽ノ場合ニ於テモ亦右ニ論述スル所ト同一ノ理由ニ依リ單ニ隠蔽ノ故意アルヲ以テ足レリトセス必ス他人ノ罪ヲ免レシムルノ故意アルコトヲ要ス此場合ニ於テハ法律ハ特ニ之ヲ明言セリ(第百五十二條)

(所爲) 藏匿トハ自己ノ管守内隠避トハ自己ノ管守外ニ於テ犯人ヲシテ官ノ發見ヲ避ケシムルノ所爲ヲ云ヒ隠蔽トハ罪證ヲ藏匿隠避スルノ所爲ヲ云フ

(手段) 本罪ノ手段ニ就テハ法律上特ニ明定スルコトナキヲ以テ苟モ其手段ニ一般犯罪ノ能力アル以上ハ如何ナル方法ヲ用ヅルモ不可ナル所ナシ例ハ甲ナル者自ラ犯シタル罪ヲ隠避センカ爲メ贈與契約威力強迫等ニ依リ乙者ナル他人ヲシテ自首等ヲ爲サシメ代テ其刑ヲ受ケシメタルトキハ乙者ハ犯人隠避ノ罪アル可シ甲者ハ先ニ犯シタル罪ノ外尙ホ犯人隠避罪即チ乙者ノ教唆者トシテ處斷セラル可シ

(刑罰) 罪人藏匿隠避ノ罪ハ十一日以上一年以下罪證隠蔽ノ罪ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ共ニ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但重罪ノ刑ニ處

附加刑ノ
執行ヲ
遁ル、罪

セラレタル囚徒ノ藏匿ニ係ルトキハ一等ヲ加フ

第四章 附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪

附加刑ノ執行ヲ遁ル、所爲ヲ罰スルニ更ニ他ノ刑ヲ以テスルハ囚徒逃走ノ罪ヲ罰スルト等シク理論上其當ヲ得タルモノニ非サルナリ若シ公權ヲ剝奪セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタルトキハ其制裁ハ即チ其所爲ノ無効ト爲ルカ若クハ他ノ刑名ニ觸ル、モノト爲ルニ過キサル可シ例ヘハ公權ヲ剝奪セラレタル者ニシテ帝國議會ノ議員ニ撰擧セラレタル時ハ其撰擧ハ單ニ無効ニ歸スルカ又ハ別ニ身分詐稱ノ罪ヲ構成ス可シ外國ノ勳章ヲ佩用シタルトキハ之ヲ勳章僭用ノ罪ニ問フ可シ特ニ附加刑ノ執行ヲ遁ル、ノ罪トシテ之ヲ罰スルノ必要アルヲ見スト雖モ我刑法ハ附加刑中單ニ剝奪公權及停止公權ニ就キ其刑ヲ遁ル、ノ罪ヲ定メタリ(第百五十四條)然レトモ第百五十五條ハ監視ノ執行ヲ遁ル、ノ罪ヲ定メタルモノニ非スシテ監視規則違背ノ罪ヲ定メタルモノニ過キス抑モ監視ハ唯行政官署ニ於テ犯人ノ行狀品行ヲ觀察スルモノニ外ナラサルヲ以テ犯者ハ如何ナル場合ニ於テモ其執行ヲ遁ル、コトヲ得ス故ニ法律ハ監視ハ期滿免除ヲ得スト云ヒ監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス可キモノト定メタリ(第四十條及第六十條)蓋シ監視規則ノ執行ト監視自身ノ執行トハ其間大差アリ決シテ之ヲ同視ス可カラズ監視規則ハ唯監視自身ノ執行即チ犯人ノ行狀ヲ觀察スルニ便宜ナル爲メ特ニ設ケタル規則ニシテ監視ノ外向ホ別ニ犯人ヨリ或權利ヲ剝キ又ハ或義務ヲ以テ犯人ニ負ハシメタルモノナリ故ニ刑法第百五十五條ハ監視規則ニ違背スルノ罪ヲ定メタルモノニシテ監視ノ執行ヲ遁ル、罪ヲ定メタルモノニ非ス

此罪ヲ構成スル所ノ主體物體所爲等ニ就テハ特ニ説明ヲ要ス可キモノナシ而シテ其刑罰ニ就テハ私ニ公權ヲ行フノ罪ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ監視規則違背ノ罪ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但是等ノ罪ハ囚徒逃走ノ罪ト等シク既ニ一タヒ處刑ヲ受ケタル者ニ非サレハ犯スコトヲ得サルヲ以テ刑期限内再ヒ犯シタルトキニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトナシ(第百五十六條)

官ノ封印
ヲ破毀ス
ルノ罪

第五章 官ノ封印ヲ破毀スルノ罪

官ノ封印ヲ破毀スルノ罪ハ官廳ノ處分ヲシテ其効力ヲ失ハシムル犯罪ノ一種ナ

刑法各論

國家ニ對スル罪 官權ノ執行ニ抗スル罪

附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪
官ノ封印ヲ破毀スルノ罪

リ抑モ官廳ノ處分ヲシテ無効ヲラシムルノ罪ハ官ニ於テ公然揭示シタル官廳ノ
公達告示又ハ命令書等ヲ破毀汚損スルノ罪其他封印ヲ破毀スル罪等其區域甚ク
廣シト雖モ我刑法ハ其文書ニ係ルモノハ之ヲ官文書偽造毀損罪ノ一種トシ其他
ニ在テハ之ヲ財産ニ對スル罪ヲ記載スルノ條下ニ附記シ唯官ノ封印ヲ破毀スル
罪ニ就キ特ニ一節ヲ設ケタリ(第七十四條乃至第七十六條)

封印破毀ノ罪ハ太甚單一ニシテ其構成ニ就テハ特ニ論述ス可キモノナシト雖モ
左ニ法文ノ解釋上一二ノ疑點ヲ解説セシ
(第一法文ハ特別ニ施シタル封印ト明言スレトモ特別トハ物件差押其他官ノ處分
ノ目的ノ爲メニセルモノヲ指示スルニ過キスシテ特ニ他意アルニ非ス(第二)封印
ヲ破棄スルトハ單ニ印影ノ存在スル部分ヲ破棄スルニ止マラス廣ク一般人ニ對
シテ封印ノ効力ヲ失ハシムルノ所爲ヲ指示セルモノト解セサルヲ得ス例ヘハ茲
ニ一條ノ繩ヲ以テ倉庫ニ繞ラシ倉庫ノ入口ニ至リテ官ノ封印ヲ施シタルニ際シ
印影外ナル部分ヲ切斷シ之ヲ棄ツルモ尙ホ封印毀棄ノ罪トセサル可カラサルカ
如シ然レトモ若シ竊盜アリ地下ヲ穿テ倉庫ニ入りタルコトアラハ之ヲ封印ヲ毀

棄シタルモノナリトスルコトヲ得ス何トナレハ此場合ニ於テハ此封印ニ對シテ
再ヒ毀棄ノ罪ヲ犯スコトヲ得ヘク封印ハ尙ホ一般人ニ對シテ其効力ヲ存スレハ
ナリ

封印破棄ノ罪ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ看守者自ラ犯シタルトキハ一
等ヲ加ヘ其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルコトヲ覺
ラサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但官印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取
シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(第七十四
條乃至第七十六條)

第四款 政權ノ執行ニ抗拒スル罪

第一章 立法議會ノ議事ヲ妨害スル罪

立法議會ノ議事ヲ妨害シ若シハ不正ノ議決ヲ爲サシメントスルノ暴行又ハ暴行
強迫若シハ詐欺等ニ依リ議員ノ議場ニ臨席スルコトヲ妨クルカ如キハ直接ニ國
家立法權ノ執行ヲ害スルモノニシテ素ヨリ之ヲ不問ニ附ス可キニ非スト雖モ我
刑法ニ於テハ特ニ是等ノ罪ヲ規定セス故ニ其所爲ニシテ他ノ刑名ニ觸ル、コト

政權ノ執行ニ抗拒スル罪
行政ニ抗
行ニ拒
スル罪
立法議會
ノ議事ヲ
妨害スル
罪

ナキモノハ之ヲ罪トスルコトナシ

刑法第二百三十四條ノ場合即チ賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシムルノ罪ハ或ハ之ヲ不正ノ議決ヲ爲サシムルノ罪トスルコトヲ得ヘキニ似タレトモ同條ノ所謂投票ナルモノハ單ニ公選ノ投票即チ選舉ノ目的ノミニ出テタル投票ヲ指示スルモノニ止マリ敢テ議事ノ議決ニ關スル投票ヲ包含スルモノニ非ス

第二章 公選ノ投票ヲ僞ルノ罪

公選ノ投票ヲ僞ルノ罪

公選ノ投票ヲ僞ルノ罪ハ公選ノ投票ヲ僞造増減シ又ハ賄賂ニ依リテ投票ヲ爲シ又ハ投票ノ結果ニ就キ詐欺ノ所爲アルモノヲ指示ス(第二百三十三條乃至第二百三十六條)

(主體) 公選ノ投票ヲ僞造シ又ハ其數ヲ増減スルノ罪ハ第二百三十三條ノ場合ニ於テハ何人ト雖モ其犯罪ノ主體タルコトヲ得何トナレハ法律ニ於テ選舉人ニ負ハシムルニ盡ク投票ヲ爲ス可キ義務ヲ以テセサル場合又ハ無名投票等ヲ爲スノ場合ニ於テハ選舉人名簿ニ記載ナキモノト雖モ投票ニ依リ投票ノ數ヲ増減スルコトヲ得レハナリ但第二百三十五條及第二百三十六條ノ場合ニ於テハ

投票検査又ハ結果報告ノ任アル者ニ限り第二百三十四條中賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲スノ罪ハ選舉人ニ非サレハ之ヲ犯スコトヲ得ス

(物體) 公選ノ投票トハ公ノ事務ニ關スル選舉ノ標章ノ義ナリ公選トハ帝國議會府縣會町村會其他公ノ認了ヲ得タル公會ノ選舉ヲ云フ

(手段) 第二百三十四條ノ投票ニ關スル場合ニ於テハ賄賂ノ手段ニ依リ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票シタルコトヲ要ス但賄賂ヲ授受スルノ契約ニ止マルトキハ一般此罪ヲ構成スルコト勿ル可シト雖モ契約ノ手附又ハ内拂トシテ現ニ幾分ヲ授與シタルトキハ賄賂トシテ之ヲ論スルコトヲ得

(所爲) 此犯罪ノ所爲ハ凡ソ三種ヨリ成立ス第一ハ投票ノ僞造第二ハ票數ノ増減(第二百三十三條)第三ハ投票ノ結果ヲ詐ルノ所爲(第二百三十六條)ニシテ孰レモ是等ノ所爲ニシテ存スル以上ハ現ニ不當ナル選舉者ヲ選舉スルノ結果アルヲ要セス本罪ヲ構成ス可シ但賄賂ノ手段ニ依リ投票ヲ爲スノ所爲ハ避止即チ賄賂ヲ以テ人ニ投票ヲ爲サシメス又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲サ、ルノ所爲ヲ包含スルコト勿ル可シ

第五款 官吏瀆職ノ罪

第一章 總說

官吏瀆職ノ罪ハ犯罪ノ性質又ハ官吏ノ種類ニ依リ之ヲ類別スルヲ以テ學者ノ定説トス犯罪ノ性質ノ點ニ於テハ純然タル職務上ノ犯罪ト常事ト職務ト混同セル犯罪トノ二者ニ區別シ往々純然タル職務上ノ犯罪ヲ稱シテ適當ノ意義ニ於ケル瀆職ノ罪ト云フ又官吏ノ種類ノ點ニ於テハ一般官吏ノ犯罪ト特種ナル官吏ノ犯罪トノ二者ニ區別ス然レトモ我刑法ハ特ニ一種ノ區別ヲ設ケ(第一)官吏公益ヲ害スル罪(第二)官吏人民ニ對スル罪(第三)官吏財産ニ對スル罪ノ三節ト爲シ純然タル職務上ノ犯罪ト混同ノ犯罪ナルトヲ問ハス又一般官吏ニ係ルモノト特別ノ官吏ニ係ルモノトヲ論セス共ニ之ヲ同一節ニ混入セリ故ニ余ハ今便宜上ヨリ現行刑法ノ區別ニ從ヒ之ヲ論ス可シト雖モ瀆職罪一般ニ通ス可キ原則ニ就キ先ツ豫メ注意ス可キ要點ヲ掲ケ而シテ後現行法ノ規定ニ論及セン

(第一) 一般ノ官吏トハ直接間接ヲ問ハス又有給無給ヲ論セス總テ行政上ノ命令ニ依リ日本帝國ノ國務ニ從事スル吏員ヲ云フ府縣町村ノ吏員ハ自治體ノ公務

ヲ執ルモ國家ノ事務ヲ行フモノニ非サレハ官吏ニ非サル可ク又帝國議會ノ議員及兵士ハ國務ヲ執行スル者ナルモ選舉ニ依リ又ハ法律上ノ義務トシテ其職ニ在ル者ナレハ官吏ニ非サル可シ然レトモ我法律ハ特別法ニ依リ官吏ト公吏トヲ同視シ刑法中官吏トアル場合ニハ公吏ニモ亦之ヲ適用ス可キモノトセリ其理論ノ當ヲ得サルハ既ニ第一編ニ於テ詳述セル所ナリ

(第二) 純然タル職務上ノ犯罪ハ官吏ニ非サレハ行フコト能ハサルモノニシテ法律上之ヲ犯罪トスルノ場合太甚少ナク就中其過失怠慢ニ係ルモノハ單ニ之ヲ官吏懲戒令ニ照シテ處分スルニ止マルモノ太甚多シ

(第三) 常事職務二者混同ノ犯罪ハ官吏ノ職務上常人ト雖モ罪ト爲ル可キ所爲ヲ行フモノナルヲ以テ其故意ニ出ツルト過失ニ係ルモノトヲ問ハス苟モ法律上之ヲ犯罪トスル以上ハ刑法ヲ以テ之ヲ處斷セサル可カラス常人ニ在リテモ犯罪ト爲ル可キ所爲ハ官吏タルノ故ヲ以テ刑法上其責ヲ免カル、コト能ハサルハ明白ナリ但此等ノ場合ニ於テ併セテ懲戒處分ヲ行フハ素ヨリ妨ケ勿ル可シ

(第四) 混同ノ犯罪ニ就テハ主體ノ外其犯罪ノ手段物體所爲等ニ至テモ亦常人ニ

係ル犯罪ト異ナルコトナシ唯立法上其刑ヲ加重シ身分ノ官吏タルカ爲メニ特ニ之ヲ一種ノ重キ罪トスルモノニ過キサルナリ但官吏タルノ身分ニ依リ一般ノ犯罪ニ付キ悉ク之ヲ加重スルハ素ヨリ法理ノ許サ、ル所ナリ

官吏公益ヲ害スル罪

第一章 官吏公益ヲ害スル罪

(第一) 法律規則ヲ公布施行スルノ義務アル官吏其義務ヲ履行セズ又ハ一般ノ官吏ニシテ之ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス法文ニ「官吏其管掌ニ係ル」ト云フハ公布施行ノ義務アル官吏タルコトヲ指シ之ニ反シテ其公布施行ヲ妨害シタル犯罪ノ主體ハ此義務アル者ニ止マラス廣ク一般ノ官吏ヲ指示ス(第二百七十三條)

(第二) 兵隊ヲ要求シ及之ヲ使用スル權アル官吏兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サ、ル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス之ニ反シテ陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但我刑法カ斯ク身分ノ將校タルト否

ラサルトニ從ヒ其刑ニ輕重ヲ設ケタルハ敢テ特別ノ理由アルヲ發見スルコト能ハス加之陸海軍ノ將校ニシテ出兵ヲ肯セサルノ所爲ハ官權ヲ行ハサルノ所爲ニシテ官吏公益ヲ害スル犯罪タル可キニ特ニ之ヲ公務ヲ行フヲ妨害スルノ犯罪中ニ編入シ公ト官トヲ同視シタルカ如キハ能ク國家ト社會トノ範圍ヲ明別シタルモノニ非サルナリ(第二百七十四條及第二百七十七條)

(第三) 我刑法第二百七十五條ハ一般ノ官吏ニシテ規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ヲ罰スルニ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ以テスレトモ此等ノ所爲タル之ヲ懲戒令ニ照シテ處斷スレハ則チ足レリ夫ノ收稅官會計官等カ其專任ニ係ル事務ト牽連セル商業ヲ營ムカ如キハ法律之ヲ禁止スレハ格別汎ク一般ノ官吏ニ對シテ輕罪ノ刑ヲ以テ之ニ臨ムハ印度刑法ノ外未ダ他ニ其例ヲ見サル所ナリ就中既ニ汎論ニ於テ論述シタル所ノ共犯論ニ從ヘハ此犯罪ノ共犯タル常人モ亦之ヲ刑法ニ問ハサルヲ得サルハ稍法ノ酷ナルモノアルニ似タリ加之規則ノ規定スル所ニ依レハ官吏ニシテ長官ノ許可ヲ得タルトキハ如何ナル商業ヲ爲スモ亦此犯罪ヲ構成スルコトナキモノナルカ故ニ此犯罪ノ成立不成立

ナ以テ全ク長官ノ許否如何ニ存スルモノトスルカ如キハ能ク法律上ノ衡平ヲ得タルモノト謂フ可カラズ論者或ハ云ハン苟モ規則ニ於テ禁止シタル商業ナラソニハ長官ノ許否ハ犯罪ノ成立不成立ニ關係スルコトナケレハ縱令長官ノ許可ヲ得タルモノト雖モ亦之ヲ罰セサルヲ得スト然レトモ法文ハ規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ云々ト明定シ規則ニ禁シタル商業ヲ爲シタル者云々ト謂ハサルヲ以テ長官ノ許可ヲ得タル者ハ則チ規則ニ違背シタル者ニ非サルナリ而シテ又特ニ此法文ノ非難ス可キハ法律ニ於テ禁止スル商業ハ如何ナル商業タルコトヲ明定セス全ク之ヲ行政官ノ定ムル所ニ一任シ而シテ此行政規則ニ附スルニ刑法上ノ制裁ヲ以テセルノ一事ナリ

然レトモ官吏商業ヲ爲スノ罪ヲ以テ刑法上ノ犯罪トセンニハ仍ホ二個ノ條件ヲ具備セサル可カラサルモノアリ左ニ之ヲ論述セン

(第一) 官吏ニ對シテ禁シタル商業ノ何物タルハ之ヲ其規則ニ照シテ初メテ知ルコトヲ得ヘキモ苟モ之ニ刑法ノ制裁ヲ附シ理論上常人ニシテ其共犯タル者ノ罪ヲ問フニ至リテハ其規則タル宜シク人民一般ニ對シテ公達シタルモノタラ

サル可カラス

(第二) 此犯罪ハ全ク商業ヲ爲シタル者ノ所爲ヲ罰スルヲ以テ商業ニ非サルモノニ至リテハ如何ナル規則アリトモ懲戒令ヲ以テ之ヲ處斷スルハ格別之ニ刑法ノ制裁ヲ加フルコトヲ得ス故ニ官吏ニシテ規則ニ反シ職業ヲ營ムモ刑法ノ問フ可キモノニ非サルナリ商業ト職業トハ其間自ラ區別ノ存スルモノアリ決シテ輕々看過スルコトナキヲ要ス職業トハ自由ヲ備ヘタル物體即チ人類ヲ相手トスル人類ノ活動ヲ云ヒ商業トハ自由ヲ備ヘサル物體即チ天造物又ハ人工ヲ加ヘタル天造物ヲ相手トスル人類ノ活動ヲ云フ一ハ智能ノ活用ニ基キ一ハ勞力ノ活用ニ基ケリ例ヘハ官吏、辯護士、教師、醫師、著述家タルノ事業ハ職業ナルモ製造、農工、運輸等ノ事業ハ商業ナリ他ノ法律規則ニ於テ禁止セサル以上ハ官吏ト雖モ辯護士ト爲リ教師ト爲リ醫師ト爲リ又著述家タルコトヲ得ルハ官吏ニシテ他ノ官吏ヲ兼務シ得ルト毫モ異ナル所勿ル可ク又縱令他ノ規則ニ於テ之ヲ禁止スルモノアルニ拘ハラス官吏ニシテ是等ノ事ヲ爲スハ決シテ之ヲ官吏商業ヲ爲スノ罪トスルコトヲ得サルナリ

官吏人民
ニ對スル
罪

第二章 官吏人民ニ對スル罪

(第一) 威權濫用ノ罪 一般ノ官吏擅ニ威權ヲ用ヰ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百七十六條)此法文頗ル曖昧ニシテ明晰ヲ缺クモノアリ其精神ヲ磨出シテ之カ解釋ヲ下スニ非サレハ無用ノ法條タルニ歸ス可シ其所謂濫リニ威權ヲ用ユトハ法律上ノ規程ニ反シ其職權ヲ濫用シ又ハ職權ヲ濫用セント脅迫スルノ意義タルコト明白ナリト雖モ其所謂權利ナキ事ヲ行ハシムルトハ果シテ如何ナル事ヲ指示スル乎權利ナキ事トハ法律ノ禁スル所ノ所爲即チ犯罪ヲ指示スルモノトセン乎官吏ニ此罪アルハ勿論其人民ヲシテ行ハシメタル犯罪ニ就テハ官吏タルト常人タルトチ問ハズ該犯罪ノ教唆者トシテ罰セラル可キコト素ヨリ當然ナリ故ニ權利ナキ事トハ犯罪ヲ構成セサル所爲ヲモ包含スルモノト解釋セサルヲ得スト雖モ果シテ然ラハ權利アルコトヲ行ハシメタル官吏モ亦之ト同一罪ニ問ハサルヲ得ス何トナレハ苟モ法律ニ於テ禁止セサル所爲タラソニハ何人モ之ヲ行フノ權利アルモノ

ニシテ而シテ其權利ヲ行フト行ハサルトハ權利者ノ自由ナレハナリ由是觀之
法文ノ所謂權利ナキコトヲ行ハシムルトハ官吏ノ職權上人民ヲシテ爲サシメ
得ヘキ所爲ニシテ且人民モ亦應サニ行ハサル可カラサル所爲ヲ除キ其他ノ一
切ノ所爲ヲ指示スルモノト云ハサルヲ得ス

(第二) 被害者ヲ保護スルヲ怠ルノ罪 人ノ身體生命身體自由名譽及財産ヲ妨害
スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢察官警察官其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ
爲サル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金
ヲ附加ス(第二百七十七條)凡ソ是等ノ官吏ハ現行犯罪ノ通知ヲ得テ犯人ノ搜查
其他證據ノ取調等ヲ爲スノ義務アルハ其當然ノ職分タリト雖モ本條ハ更ニ是
等ノ官吏ニ負ハシムルニ被害者ヲ保護スルノ義務ヲ以テセリ是レ本條ヲ以テ
特ニ官吏ノ人民ニ對スル犯罪中ニ加入セル所以ナラン但現行犯罪ニシテ且犯
人ノ猶ホ犯罪ヲ執行スルノ際ニ於テ尙ホ保護ノ處分ヲ施サハル者ニ非サレハ
此罪ニ問フコト能ハサル可シ

(第三) 官吏人ヲ監禁スル罪 逮捕官吏司獄官吏監禁ノ罪ヲ犯シタル者ハ十五日

以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ若シ又是等ノ官吏護送者ニシテ苛刻ノ所爲ヲ施シタルトキハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ其囚人ヲ死傷ニ致シ又ハ水火震災ノ際囚人ノ監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ之ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ(第二百七十八條乃至第二百八十一條)但司獄官吏ニ就テハ法律上囚人ヲ出獄セシム可キ時ニ至リ之ヲ放免セサル者モ尙ホ監禁ノ罪ヲ犯シタルモノナル可ク又水火震災ノ際過失ニ非ス故意ヲ以テ囚人ノ監禁ヲ解カサルトキハ謀殺若クハ故殺ノ罪ヲ爲ス可シ何トナレハ水火震災ニ際シ之ヲ其變災ニ放任スルトキハ自然ノ結果トシテ自由ヲ奪ハレタル囚人ヲ死傷セシムルニ至ル可キハ司獄官吏ノ熟知スル所ナリ而シテ之ヲ解放スルノ任アル者ニシテ自ラ知テ故意ニ之ヲ解放セサルニ至テハ囚人ノ死ヲ欲スルノ意ナキモ之ヲ殺スノ意ナキモノトスルコトヲ得サレハナリ

(第四) 受理審理ヲ拒ムノ罪 民刑ノ訴ヲ受理審理ス可キ任アル官吏權利ナクシ

テ其訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百八十三條)

(第五) 賄賂收受ノ罪 賄賂收受ノ罪ハ官吏ニシテ其職務ヲ執行スルノ報酬若クハ原因トシテ適法ノ報償ノ外他ニ或満足ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケンコトヲ承諾スルノ罪ナ云フ

(主體) 此罪ハ官吏ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス英獨ノ法律ニ於テハ賄賂ヲ授受スル者ハ共ニ其罪アリトシ特ニ英國法ニ於テハ或官吏ヲシテ職務上ノ事ヲ爲サシメンカ爲メ私人相互ニ金錢ヲ授受スルモノヲ以テ尙ホ賄賂ノ罪アリトスレトモ我刑法ハ政畧上賄賂ヲ受クル官吏ノミニ限り之ヲ授クル者ヲ罰スルコトナシ何トナレハ若シ授受者ヲ併セテ其罪アリトスルトキハ其犯罪ノ發覺極メテ難キニ至ル可ケレハナリ又此罪ハ既ニ官吏ノ地位ニ在ル者ニ非サレハ犯スコトヲ得サルヲ以テ若シ數日又ハ數月後現ニ官吏ニ採用セラル可キ充分ノ見込アル者ニシテ賄賂ヲ受クルモ之ヲ罰スルコトヲ得サル可シ

(物體) 満足トハ必スシモ金錢若クハ財産上ノ利益ヲ得有スルノミニ限ラス鄭重ノ饜應ヲ爲シ又ハ男女ノ情合ヲ約シ若クハ犯人ノ親族等ヲ以テ官吏其他ノ職ニ採用シ又ハ既ニ犯人ノ負フタル義務ヲ釋放スル等ノ事ヲ包含ス但我カ刑法ニ於テハ「賄賂ヲ收受シ云々」ト明言セルヲ以テ收受スルコトヲ得ヘキ物ニ非サレハ此罪ヲ構成スルコト勿ル可シ然レトモ是等ノ満足タル總テ官吏カ法律上ニ得有スルコトヲ得ヘキ報酬タルニ於テハ賄賂罪ノ物體タルコトヲ得サルハ當然ナリ

(所爲) 單ニ満足ヲ受ケ又ハ之ヲ受クルノ承諾ヲ爲スノ所爲ヲ以テ此罪ヲ構成スルニ充分トシ敢テ官吏カ此満足ノ報トシテ現ニ或不法ノ處分ヲ爲スコトヲ要セス故ニ司獄官吏ニシテ死刑執行ヲ爲スコト僅ニ數分時前ニ於テ死囚又ハ其他ノ者ヨリ贈與ヲ受取ルモ尙ホ此罪ヲ爲ス可シ若シ又刑法ニ定メタル特別ノ官吏ニシテ現ニ不法ノ處分ヲ爲スコ至リタルトキハ之ヲ枉斷罪トシテ論スルコトヲ得又此罪ヲ以テ或ハ官吏ノ職務ヲ執行スルノ前ニ非サレハ成立スルコト能ハサルモノトスルノ說アレトモ實際英國法ノ如ク其時ノ

前後ヲ問ハサルモノトスルニ非サレハ賄賂ノ弊害ヲ防止スルニ足ラサルナリ但官吏ニ與フ可キ満足ニ對スル報酬ハ官吏ヲシテ其職務ヲ行ハシメントスルニ在レトモ其行ハントスル所ノ處分自身ハ敢テ不法ナルト否ラサルトヲ問ハサルナリ

(犯意) 此犯罪ヲ構成スルニハ即チ犯人ニシテ賄賂ヲ贈ル所ノ者ノ希望スル處分ヲ決定セントノ意思ヲ以テ賄賂ヲ收受スルヲ要セスト雖モ贈與者カ何ニカ爲ニスル所ノ意思アルヲ知リツ、收受スルコトヲ要ス

(種類及刑罰) 賄賂罪ハ其主體即チ官吏ノ種類ニ依リテ其罪刑ヲ異ニスルコト左ノ如シ但何レノ場合ニ於テモ既ニ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒収シ費消シタルモノハ其價ヲ追徴スルヲ以テ我刑法ノ規定トスレトモ此追徴ハ素ヨリ刑罰ニ非スシテ沒収ノ刑ヲ執行スル一種ノ方法ナリ故ニ犯人ニシテ裁判言渡後ニ死亡スルモ更ニ之ヲ追徴スルコトヲ得ス然ラズンハ犯者以外ノ者ニ向テ刑罰ヲ執行スルモノタルニ至ル可シ(第二百八十八條)

(イ) 一般ノ官吏ニ係ルトキハ一年以上以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四

十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百八十四條)

(ロ) 民事裁判官檢察官吏ニ係ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百八十五條第一項及第二百八十六條第一項)

(第六) 枉斷ノ罪 一般ノ官吏及民事裁判官ニシテ賄賂罪ヲ犯シ因テ不正ノ處分ヲ爲シタルトキハ賄賂ノ罪ニ照シ各々一等ヲ加ヘ(第二百八十四條第二項及第二百八十五條第二項)裁判官檢察官賄賂ニ依リ又ハ私情私怨ノ爲メ被告人ヲ曲庇シタルトキハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條及第二百二十二條ノ例ニ照シテ處斷ス

(第七) 拷問ノ罪 苟モ法律ニ於テ拷問ヲ禁止スル以上ハ拷問ノ罪モ亦官權濫用罪ノ一種ニ過キサレトモ此慘酷ナル弊害ヲ除去セント欲シ我刑法ハ特條ヲ設ケテ之ヲ一種ノ重キ罪トセリ即チ裁判官檢察官及警察官吏被告人ニ對シ罪狀ノ

陳述ヲ強ユルノ方便トシテ被告人ニ對シ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス(第二百八十二條)

官吏財產ニ對スル罪

第四章 官吏財產ニ對スル罪

(第一) 監守盜 官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ自ラ監守スル所ノモノタルト否トテ問ハス第三百五條ノ例ニ照シテ處斷ス其輕罪ノ刑ニ處スルニ止ル者ト雖モ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス(第二百八十九條及第二百九十一條)

(第二) 正數外ノ金穀ヲ徵收スルノ罪 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其監視ハ前項ニ同シ(第二百九十條)但法文ニハ「正數外」ト特書スルモ法律ニ於テ徵收スルコトヲ許サ、ル金額ハ勿論上納期限ノ未タ至ラサル金錢財物ヲ徵收スルモ亦正數外ナル可シ

違警罪

總說

第六編 違警罪

第一章 總說

違警罪ハ犯罪ノ度數犯罪ノ人數上ヨリ之ヲ調査スルトキハ司法事務中甚々重大ナル關係ヲ有ス可シ然レトモ其犯罪ノ性質及刑罰ノ上ヨリ考察スルトキハ甚々輕微ノ犯罪ニシテ逐一之ヲ詳說スルノ必要アルヲ見ス左ニ其大綱要目ヲ示ス

違警罪ハ既ニ論述シタルカ如ク僅ニ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス可キ犯罪ニシテ刑典法律及行政命令ヲ以テ之ヲ定ム故ニ違警罪中ニハ法律ノ違犯タル所爲ト命令ノ違犯タル所爲トヲ包含スルモノト知ル可シ但命令ヲ以テ定ム可キ刑罰ハ必スシモ違警罪ノミニ止マラス輕罪ト雖モ罰金ハ二百圓禁錮ハ一年以下ノ制裁ヲ以テ命令ニ附スルコトヲ得ヘキハ特別法ノ定ムル所ナリ此特別法ヲ稱シテ委權法ト謂フ左ニ一般ノ違警罪ニ關スル通則ヲ說明セム

(第一) 近世ノ刑法折衷主義ニ於テハ重輕罪ヲ以テ國家ノ正義ヲ害スルモノト爲シ其刑罰ヲシテ反坐ノ性質ヲ有セシメ刑罰第二ノ目的タル社會ノ利益ハ此反

坐ノ性質ヲ變セサル區域内即チ各刑罰ノ範圍内ニ於テノミ始メテ計畫スルコトヲ得ヘキモノトスルハ汎論ニ於テ既ニ詳述セル所ナリ之ニ反シ違警罪ハ全ク社會ノ利益ヲ增進シ地方ノ平和ヲ維持スルヲ以テ其性質トシ刑罰モ亦此性質ニ應シテ輕重ス可キモノナレハ犯者ノ正義ヲ害シ權利ヲ毀損シタルノ大小及惡意ノ輕重ニ從ヒ刑罰ヲ以テ之ニ反坐ス可キモノニ非ス是レ違警罪ハ過失怠慢ニ係ルモノヲ罰シ惡意ノ有無ヲ問ハサル場合多キ所以ニシテ重輕罪ト違警罪トハ其差違性質上ニ存シテ決シテ單ニ刑ノ輕重上ニ非サルナリ故ニ普國刑法カ違警罪ヲ區分シ重輕罪ト等シク之ヲ身體財產自由名譽等ニ對スル違警罪トセルカ如キハ明カニ違警罪ノ性質ヲ誤リタルモノニシテ學者ノ嗤笑ヲ招キタル所以ナルカボ氏モ亦草案ニ於テハ此區別ヲ採用セリ故ニ又單ニ刑罰ヲ輕カラシメンカ爲メ又ハ重輕罪ニ關スル規定ノ缺點ヲ補ハンカ爲メ重輕罪ヲル可キ性質ヲ有スル違警罪ヲ設クルハ其當ヲ得タルモノニ非ス例ヘハ持兇器強盜若クハ毒殺罪ノ豫備ヲ罰スルカ爲メニ違警罪ヲ設クルカ如キハ其當ヲ得タルモノニ非ス何トナレハ違警罪裁判所ニシテ此等ノ所爲ヲ處罰セント欲セ

ハ必ス先ツ豫備ノ目的タリシ毒殺罪若クハ強盜罪ノ事實ヲ審定セサル可カラサルノ不都合ヲ發生ス可ケレハナリ然レトモ安寧警察ノ目的ヲ達スル爲メ夜間刀劔等ヲ賣買スルヲ禁止シ又ハ醫師ノ證明ナクシテ毒藥ヲ賣買スル者ヲ處罰スルカ如キハ違警罪ノ性質ヲ害スルモノニ非ス何トナレハ此場合ニ於テハ他ノ重輕罪ノ豫備トシテ之ヲ罰スルモノニ非ス他ノ犯罪ヲ行フノ目的アルト否トチ問ハス一般ニ刀劔毒藥賣買ノ所爲ヲ罰スルニ過キサレハナリ

(第二) 違警罪ハ斯ノ如ク社會ノ必要ヨリ生スルモノナレハ公衆一般ノ安寧ヲ計畫スル場合ニ於テ各人ヲシテ必ス該規定ヲ遵守セシメサレハ其安寧ヲ維持スル能ハサルトキ即チ流行病及火災警察ニ關スル規則ヲ遵守セシメントスル場合ハ違警罪ノ制裁ヲ加ヘテ之ヲ強制スルコト適當ナレトモ單ニ地方一般ノ利益ヲ増進スルノ目的ニ出テタル規定ニシテ之ヲ遵守セサルモノハ自ラ己ノ利益ヲ失ヒ又ハ之ヲ増進スルコト能ハサルノミニ止マル場合ニ於テハ違警罪ヲ以テ其違犯者ヲ處分スルハ立法ノ當ヲ得タルモノニ非ス例ヘハ或商業上ノ利益ヲ目的トスル地方組合ニ加入ヲ命スル規則ノ如キ是ナリ

(第三) 此刑法(刑典)總則ニ認メタル一般ノ原理ハ違警罪ニモ亦適用ス可キモノナレトモ其重輕罪ト異ナル要點ヲ復説スレハ左ノ數項ニ歸ス可シ

- (一) 附加刑ハ沒收ノ外違警罪ニ適用スルモノナシ但法律ニ明文ナシト雖モ沒收ニ就テモ亦實際之ヲ違警罪ニ用ササルコト多シ
- (二) 違警罪ニ就テハ假出獄及復權ヲ用サス大赦特赦ニ至リテハ法律ニ明文ナキモ實際之ヲ用ユルコト勿ル可シ
- (三) 違警罪ニハ特別ノ不論罪宥恕減輕自首減輕ノ例ヲ用サス其一般ノ不論罪ニ就テハ第八十三條ノ特例ヲ適用ス又違警罪ニハ特ニ各人ノ財產權ニ對スル罪アルコトヲ認メサルカ故ニ第八十六條及第八十九條ノ減等例ヲ用ユルコト勿ル可シ
- (四) 數罪俱發ハ第一百一條ノ特例再犯加重ハ第九十三條ノ特例ヲ用ユ
- (五) 違警罪ニハ教唆者及從犯ナシ但幼者其他不能力者ヲ教唆シ又ハ其從犯タルモノ、如キ自ラ正犯タル可キモノニシテ共犯ノ例ニ依ル可キモノニ非サルコトハ既ニ汎論ニ於テ之ヲ詳述セリ

(六) 違警罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰スルノ明文ナシト雖モ輕罪ノ刑ヨリ減等シテ違警罪ノ刑ニ下ル可キトキハ其減輕シタル結果ヲ以テ本刑トスルヤ否ヲ考察シ之ヲ本刑トスル場合ニ於テハ數罪俱發及共犯等ハ違警罪ノ例ヲ適用ス可ク若シ單ニ刑ノ減輕ニ止マリ之ヲ本刑トス可カラサルトキハ實際科スル所ノ刑ハ違警罪ノ刑ナルモ仍ホ輕罪ノ例ヲ適用セサルヲ得ス

刑ノ適用上重輕罪ト違警罪ト異ナル要點ハ右ノ數項ニ外ナラサル可シ然ルニ學者往々違警罪ヲ以テ無意犯ト爲シ一切ノ違警罪ハ犯意ノ有無ヲ問ハス其過失ニ係ルモノモ常ニ其罪ヲ問ハサル可カラストスル者アレトモ素ヨリ誤見ノ太甚シキモノタリ刑法第七十七條ハ「罪ヲ犯スノ意ナキ所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規則ニ於テ罪ヲ定メタルモノハ此限ニ在ラス」ト明言シ重輕罪タルト違警罪タルトヲ問ハス犯意ナキモノハ等シク罪ナキモノト爲シ又特例アル場合ハ等シク過失ニ係ルモノヲ罰スト雖モ違警罪ノミニ限リ此特例ニ係ル可キモノタルコトハ刑法中更ニ明言スル所ナシ又決シテ斯ノ如キ特例ヲ設ク可キニ非ス故ニ我違警罪中ニ犯意ナキモノヲ罰スルモノアレトモ特ニ之ヲ明示スルニ

非サレハ必ス犯意アルヲ要ス可キナリ但違警罪ニ就テハ法律カ特ニ右ノ特例ヲ適用シ過失ヲ罰ス可シトスル場合太甚多カラント雖モ是レ立法上ノ談ニ屬ス法律規則ノ別ニ此特例ヲ設クルモノナキモ仍ホ違警罪ハ常ニ其有意無意ヲ問フ可キモノニ非ストスルハ淺見ノ最モ甚シキモノト謂ハサルヲ得ス

第二章 刑典中ノ違警罪

刑典即チ此刑法ニ於テハ單ニ刑罰ノ輕重ヲ以テ違警罪ヲ五種ニ區分シ(第一)五錢以上五十錢以下ノ科料(第二)一日ノ拘留又ハ十錢以上壹圓以下ノ科料(第三)一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上壹圓二十五錢以下ノ科料(第四)二日以上五日以下ノ拘留又ハ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料(第五)三日以上十日以下ノ拘留又ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス可キモノトセリ僅カニ一日以上十日以下ノ拘留又ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ナル狹少ノ範圍内ニ於テ之ヲ五種ニ區分セルハ其計算ノ精密ナルニ驚クノ外素ヨリ學理上敢テ見ル可キモノアレサルノミナラス偶々以テ立法官カ能ク立法ノ妙旨ヲ悟了シ得タルヤ否ヲ疑ハシムルニ足ル可シ余ハ左ニ警察ノ目的ヨリ違警罪ヲ大別シテ其概要ヲ見ン

刑典中ノ
違警罪

(第一) 安寧警察ノ目的ニ出テタル違警罪ハ公ノ危険ヲ豫防シ又ハ私權ノ安全ヲ保スルモノヲ包含ス即チ規則ヲ遵守セスシテ火藥破裂質又ハ發火質ノ物品ヲ運搬シ又ハ之ヲ貯藏シ官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造販賣シ又ハ之ヲ玩ヒ蒸氣器械烟筒等ノ建造掃除ニ關スル規則ニ違背シ崩壞セントスル家屋等ノ修理ヲ怠リ官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シ自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移ス等ノ所爲(第四百二十五條第一、二、三、四、五、六、七、八、十一、十三項)人家等ノ近傍ニ於テ濫リニ火ヲ焚キ水火等ノ變ニ際シ防禦ス可キ官命ヲ肯セス通路ノ危険ナル井溝等ニ防圍ヲ爲サス路上ニ於テ獸類ヲ嚇シ又ハ奔逸セシメ發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメ狂犬猛獸等ヲ路上ニ放チ變死人ノ檢視ヲ受ケヌシテ埋葬スル等ノ所爲(第四百二十六條第一、二、五、六、七、八、九項)及車馬ヲ疾驅シテ行人ヲ妨害シ制止ニ背キ群衆ノ場所へ車馬ヲ牽キ入レ夜中無提燈ニテ車馬ヲ疾驅シ出入ヲ禁シタル場所ニ出入シ及路上ノ常燈ヲ消ス等ノ所爲(第四百二十七條第一、二、三項及第四百二十九條第九、十三項)等是ナリ

(第二) 營業警察ノ目的ニ出テタル違警罪ハ警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シ官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣スル等ノ所爲トス(第四百二十七條第八項、第四百二十八條第一項)

(第三) 健康警察ハ衛生及醫事ニ關スル行政ヲ指示ス此種ニ屬スル違警罪ハ健康保護又ハ傳染病豫防規則ニ違背シ不熟ノ果物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シ禽獸ノ死屍ヲ道路ニ擲棄シ醫師穩婆等故ナク急病人ノ招キニ應セス死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シ溝渠下水ヲ毀損シ又ハ之ヲ浚ハサルノ所爲トス(第四百二十六條第三、四項、第四百二十七條第六、七、九、十項、第四百二十八條第六項)

(第四) 建築警察及交通警察ノ目的ニ出テタル違警罪ハ木石ヲ道路ニ堆積シ擲棄シ私有地外ニ家屋牆壁等ヲ設ケ官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キ路上ノ植木市街ノ常燈又ハ公示シタル通行禁止及指道標ヲ毀損シ渡船橋梁等ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ通行ヲ妨ケ或ハ濫リニ之ヲ通行シ制止ヲ肯セスシテ路傍ニ露店ヲ出シ橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キ道傍ニ牛馬諸車又ハ木石等ヲ放擲シテ通行人ヲ妨ケ又ハ水路ニ舟ヲ浮ヘテ通船ヲ妨害シ道路ニ冰雪等ヲ投棄シ又ハ通路ノ掃除ヲ怠ル等ノ所爲トス(第四百

二十七條第四、五、十三、十四、十五、十六項第四百二十八條第二、三、七項第四百二十九條第一項乃至第十項

(第五) 風俗警察ノ目的ニ出テタル違警罪ハ密賣淫又ハ其媒合容止ヲ爲シ定リタル住居ナク又常業ナクシテ諸方ニ徘徊シ違警罪ノ犯人ヲ曲庇シ墓碑神佛ヲ汚損シ流言浮説ヲ爲シ又ハ符呪等ヲ以テ人ヲ惑シ路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シ道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シ及酩酊シテ路上ニ喧噪シ若クハ醉臥スル等ノ所爲ヲ包含ス(第四百二十五條第十、十二、十四項等第四百二十六條第十、十一項第四百二十七條第十一、十二項第四百二十八條第四、九項第四百二十九條第十一、十二項)

第三章 刑典以外ノ違警罪

刑典以外ノ違警罪

刑典即チ此刑法ニ定メタルモノ、外尙ホ他ノ法律及中央若クハ地方廳及自治體ノ達令(勅令、閣令、省令、府縣令、市條例、町村條例)ニ於テ定メタル違警罪太甚數多ナリ而シテ其中央又ハ地方官廳若クハ自治體ノ命令制定權ハ或ハ法律ノ委任ニ基クモノアリ或ハ行政廳ニ固有ナル獨立ノ權利ニ基クモノアリ左ニ其性質ヲ論述セ

(第一) 行政廳若クハ自治體ニ達令制定權ヲ附與スル法律ヲ委權法ト謂フ委權法ニ基キ制定シタル達令ハ委權法ノ定ムル所ノ制裁ナラシニハ必スシモ違警罪ノ刑ニ止マラス輕罪ノ刑ニ係ルモノ亦少ナカラス而シテ此委權ノ方法ニ二様アリ一チ特別ノ委權トシ一チ一般ノ委權トス特別ノ委權トハ或事項ニ關シテ達令ヲ制定シ或一定ノ刑罰ノ制裁ヲ附スルコトヲ許容スルモノニシテ立法上太甚普通ナル委權ノ方法トス一般ノ委任トハ事項ノ何物タルヲ問ハス一般ニ行政廳ニ委スルニ或程度ノ刑罰ノ制裁ヲ附シタル命令ヲ發スルノ權ヲ與フルモノナリ然レトモ憲法ハ法律ニ依ルニ非サレハ審問處罰ヲ爲スコトヲ禁スルカ故ニ或ハ斯ノ如キ一般ノ委任ヲ以テ憲法ニ違フモノト論スルノ學者アル可キモ特別ノ委任ニシテ違憲ニ非サレハ一般ノ委任モ亦必スシモ違憲ト云フコトヲ得サル可シ現ニ我法律ハ凡テ命令ノ條項ニ違犯スル者ハ其命令ノ規定スル所ニ從ヒ二百圓以内ノ罰金若クハ一年以下ノ禁錮ニ處スルコトヲ得ヘキコトヲ明定シ又勅令ヲ以テ凡テ省令ニハ二十五圓以内ノ罰金若クハ二十五日以下

ノ禁錮ノ罰則ヲ附シ又地方廳ノ命令ニハ十圓以内ノ罰金若クハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得ヘキ旨ヲ明定セリ

(第二) 行政警察ノ範圍ニ屬スル事項ニ就キ地方廳カ其命令ニ違警罪ノ罰則ヲ附スルノ權ハ行政權ニ固有ナル權利ニシテ法律ノ委任ニ出テタルモノニ非ス斯ノ如キ罰則ノ制定權ハ當然地方ノ行政權内ニ包含セラル可キ權利ニシテ既ニ行政權アル以上ハ又當然之ニ伴フ可キ權利ナリ故ニ刑法第四百三十條ハ單ニ法律ニ於テ地方廳カ其固有ノ權ニ依リ制定シタル違警罪ヲ處分スルノ例ヲ定メタルノミニシテ同條ノ規定ニ依リ地方廳カ始メテ萬種ノ違警罪ヲ設クルノ權ヲ取得シタルモノニ非サルナリ

(第三) 斯ノ如ク違警罪ハ地方廳ニ固有ナル權力ニ基ク者ナルヲ以テ法律自身ニ於テ違警罪ノ刑ヲ定メタルトキハ其事項ニ關シテハ法律ハ寧ロ地方廳ノ違警罪制定權ヲ制限シタル者ト謂ハサルヲ得ス故ニ此刑法若クハ他ノ法律ニ於テ定メタル違警罪ト同一ノ事項ニ付キ地方廳ニ於テ此刑法又ハ他ノ法律ノ刑ト異ナリタル刑ヲ設ケ又ハ同一ナル刑ヲ設ケタルトキハ地方廳ノ違警罪ハ無効

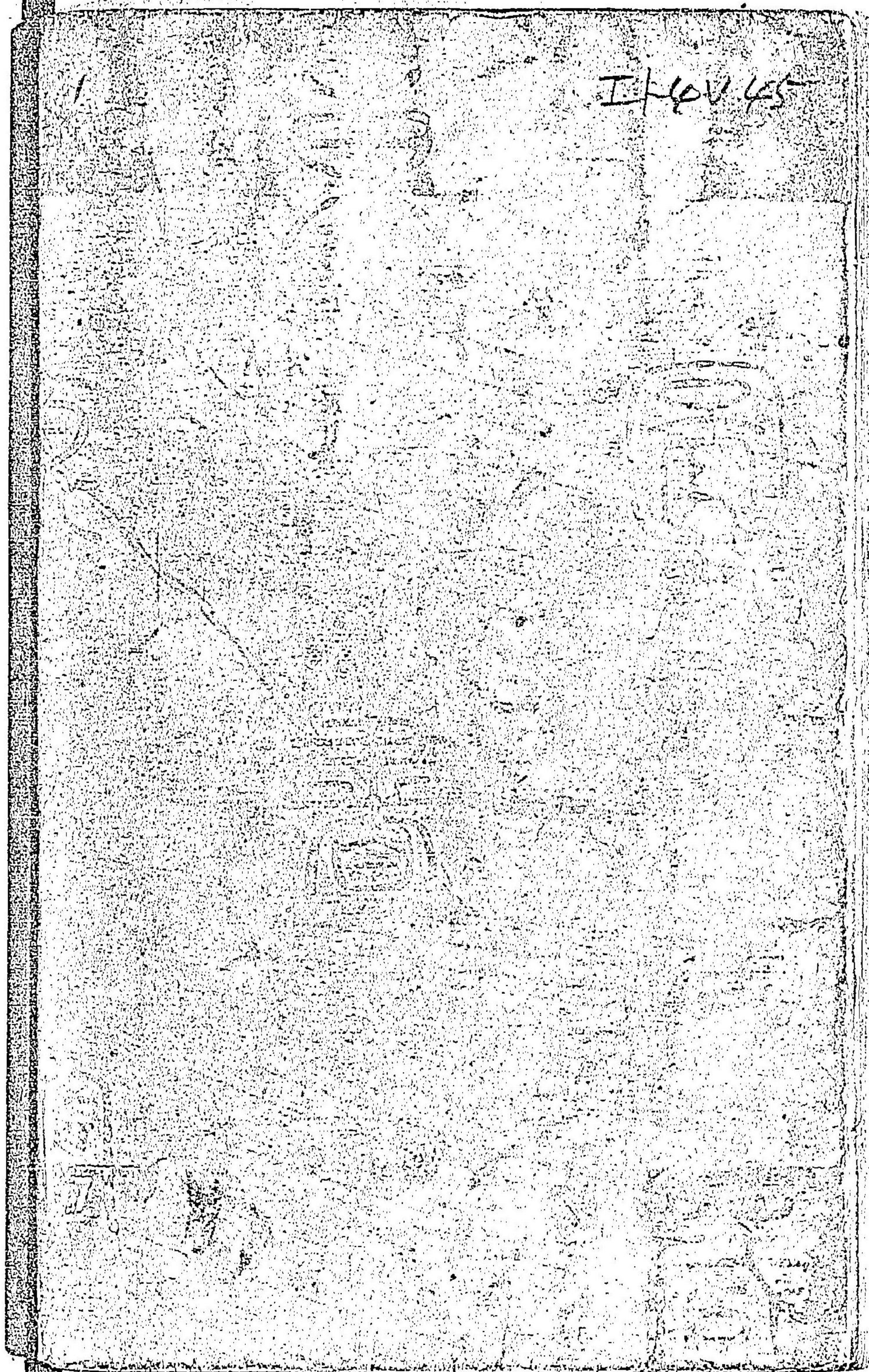
ナリ裁判官タルモノハ地方規則ノ規定ヲ顧ミルコトナクシテ單ニ刑法又ハ他ノ法律ノ正條ヲ適用スルニ止マル可シ例ヘハ刑法第四百二十六條第四項ニ於テ健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則ニ違背シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス可キコトヲ規定スルニ拘ハラス地方廳ニ於テ該規則ヲ設ケ而シテ其制裁トシテ刑法ト同一ノ違警罪刑ヲ置キ又ハ之ト異ナリタル刑ヲ設ケタルトキハ刑法ノ規定セル刑ヨリ重ク若クハ輕キトキハ勿論刑法ノ範圍内ニ於テ別ニ適當ノ刑ヲ設ケ又ハ拘留ノミニ處シ若クハ科料ノミニ處ス可キコトヲ定メタルトキト雖モ此地方違警罪目ハ無効タリ何トナレハ(一)刑法第四百三十條ハ刑法ニ定メタル以外ノ事項ニ關スル地方違警罪ノミヲ認メ(二)地方違警罪刑ニシテ刑法ト輕重ノ差アルトキハ現ニ刑法ヲ破ルモノタル可ク又其範圍内ニ於テ別ニ刑ヲ定メ又ハ拘留ノミニ處シ若クハ科料ノミニ科スルコトヲ定メタルトキハ刑法ニ定メタル刑ノ範圍内ニ於テハ裁判官ノ思料ニ從ヒ自由ニ刑ノ適用ヲ爲スコトヲ得ヘキ裁判官ノ權力ヲ減縮シ行政權ヲ以テ司法權ヲ拘束スルモノトナレハナリ

(第四) 法律ノ默諾ニ依リ地方ニ於テ制定スルコトヲ得ヘキ違警罪ハ必ス斯ノ此
 刑法若シハ他ノ法律ニ於テ既ニ定メタル以外ノ事項ニ屬スルコトヲ要シ若シ
 地方違警罪ヲ以テ同一事ニ就キ法律ト同一ノ規定ヲ爲シ又ハ之ト輕重ノ差ア
 ル刑罰ヲ設ケタルトキハ法官ハ常ニ法律ヲ適用カ可キモノニシテ地方ノ達令
 ヲ適用スルコトアル可カラス例ヘハ地方ニ於テ第四百二十八條第五項ノ劇場
 規則ヲ設ケ同條ト同一ノ刑ニ處シ又ハ異ナリタル一種ノ刑ニ處ス可キコトヲ
 定ムルモ其制裁ハ第四百二十八條ノ制裁ニシテ地方達令ノ制裁ニ非ス然レト
 モ地方廳ニシテ一ノ規則ヲ設ケタルニ其制裁ニシテ既ニ刑法ニ明定シタルモ
 ノナルトキハ其規則ハ刑法ノ制裁アル可キコトヲ明言スルコトヲ妨ケス地方
 達令ノ末ニ於テ此規則ニ違背シタル者ハ刑法第何々條ニ由リ處罰セラル可シ
 トノ一條ヲ設ケルハ往々見ル所ニシテ其注意ハ或ハ無用ニ屬スルカ如シト雖
 モ亦大ニ重要ノ關係ヲ及ホスモノナキニ非ス例ヘハ地方ニ於テ健康ヲ保護ス
 ル爲メ數十條ノ規則ヲ設ケタルコトアリトセンニ或ハ其條中眞ニ健康ヲ保護
 スルニ必要ナラサルモノアル可ク或ハ全ク他ノ關係ヨリ其規則中ニ包含セシ

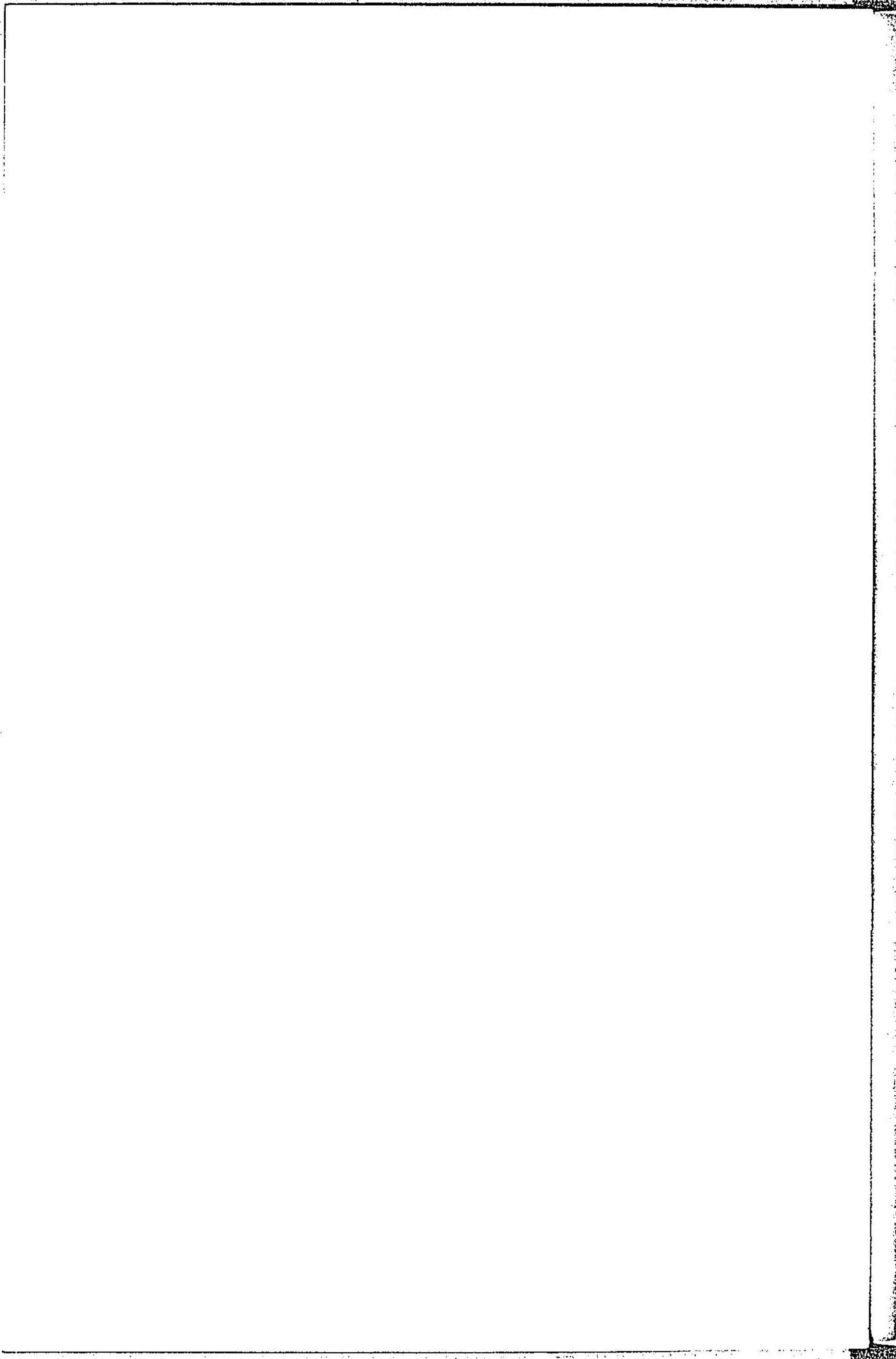
メタルモノアル可シ而シテ地方廳ハ尙ホ是等ノ條ニ就テモ其違反者ハ刑法第
 四百二十六條第四項ノ刑ニ處セラル可キコトヲ定メタルトキハ地方廳ハ是等
 ノ條ヲ以テ事實上健康ヲ保護スルニ必要ナル規則ト認定セルヤ明カナリ然ル
 ニ法官ニシテ之ヲ行政上ニ必要ナラストシ其効力ナキモノトスルコトアラハ
 是レ實ニ司法權ヲシテ行政權ヲ蹂躪セシムルノ端ヲ啓クナリ蓋其規則ノ果シ
 テ健康ヲ保護スルニ必要ナルモノナリヤ否ヤノ事實ヲ決定スルハ地方廳ノ權
 内ニ在リ上等ノ行政廳ノ命令ニ依リ其規則ヲ取消スニ非サルヨリハ法官ハ決
 シテ此規則ヲ無効トスルコトヲ得ス行政上ノ必要アルト否トハ行政官ノ判定
 ニ一任ス可キ問題ナリ司法權ノ判定シ得ヘキ事實ニ非サルナリ

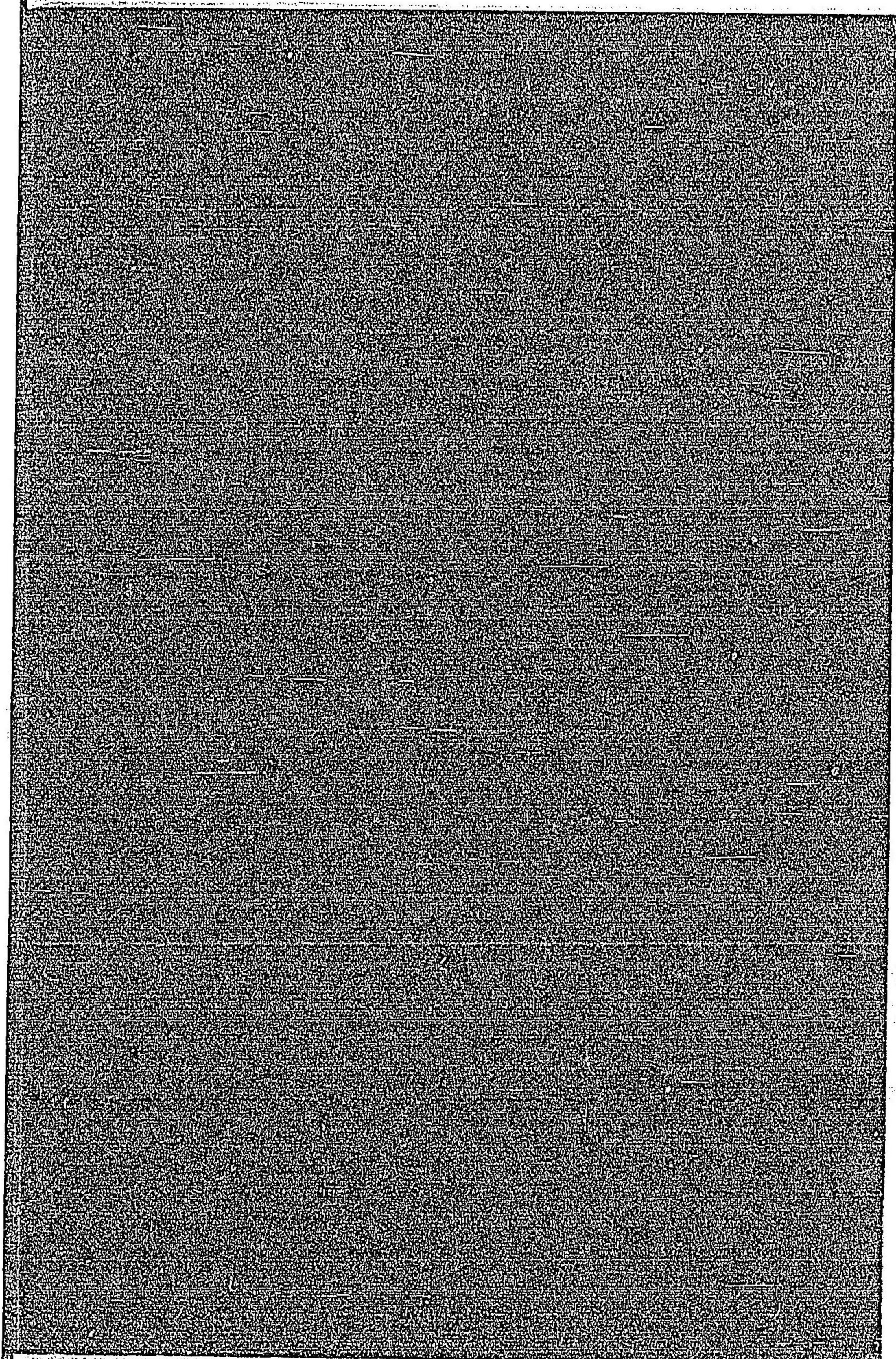
刑法各論(完結)

14
336.4
286.7



I-100-45





14

336ホ

035641-000-1

14-336ホ

刑法各論

江木 衷 / 述

M27?

BBP-0193



